

泉大津市文化財調査報告39

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報23

2005・3

泉大津市教育委員会



泉大津市文化財調査報告39

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報23

2005・3

泉大津市教育委員会

例 言

1. 本調査概報は、泉大津市教育委員会が、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地において、開発行為に先立って実施した発掘調査報告である。
2. 本調査は、国庫補助事業（補助対象経費1,500,000円、国庫補助率50%、市負担率50%）として泉大津市が計画・実施したものである。
3. 本調査は下記の構成で実施した。

調査主体者	泉大津市教育委員会教育長	楠畑 正史
事務局	泉大津市教育委員会事務局	生涯学習課
担当者	坂口 昌男	
〃	虎間 麻実	
調査補助員	野田 由恵	
〃	畑中 造子	

4. 本事業は、平成16年度事業として、平成16年4月1日に着手して、平成17年3月31日に完了した。
5. 出土遺物について、堺市埋蔵文化財センター、高石市教育委員会神谷正弘氏よりご教示いただいた。木製品について、大阪市立大学理学研究科・奈良県立橿原考古学研究所 福田さよ子氏に樹種鑑定を依頼し報告をいただいた。感謝申し上げます。
6. 本書の執筆、編集は、虎間が行った。

目 次

第1章	泉大津市と埋蔵文化財調査の状況	1
1.	泉大津市の位置と環境	1
2.	埋蔵文化財調査の現状	3
第2章	発掘調査の概要	5
1.	池上曾根遺跡	5
2.	豊中遺跡	19
3.	虫取遺跡	24
4.	板原遺跡・穴田遺跡	27
5.	東雲遺跡・池浦遺跡	50
6.	城の山跡	52
	穴田遺跡井戸出土木製品の樹種	54
	遺物観察表	55
	発掘調査抄録	59
挿 表		
表1	発掘調査一覧表	5
表2	遺物観察表	55
挿 図		
第1図	泉大津市の位置	1
第2図	市内遠望写真(左;池上曾根遺跡方面、右;豊中遺跡方面)	1
第3図	遺跡分布図	2
第4図	遺跡別工事内容内訳	3
第5図	池上曾根遺跡 調査区位置図(1:10,000)	5
第6図	2004-04地点トレンチ写真	6
第7図	2004-04地点西壁断面写真	6
第8図	2004-04地点西壁断面図	6
第9図	2004-04地点出土遺物実測図	6
第10図	2004-10地点トレンチ写真	7
第11図	2004-10地点南壁断面写真	7
第12図	2004-10地点北壁断面図	7
第13図	2004-14地点トレンチ断面図	9
第14図	2004-14地点トレンチ1写真	10
第15図	2004-14地点トレンチ2写真	11
第16図	2004-14地点トレンチ1出土遺物実測図	12

第17図	2004-14地点トレンチ2出土遺物実測図(1)	13
第18図	2004-14地点トレンチ2出土遺物実測図(2)	14
第19図	2004-14地点トレンチ2平面図(左;遺物34、右;遺物30)	15
第20図	2004-04地点出土遺物写真、2004-14地点出土遺物写真(1)	16
第21図	2004-14地点出土遺物写真(2)	17
第22図	2004-14地点出土遺物写真(3)	18
第23図	豊中遺跡 調査区位置図(1:10,000)	19
第24図	2004-02地点南壁断面図	20
第25図	2004-02地点トレンチ写真	20
第26図	2004-02地点南壁断面写真	20
第27図	2004-02地点出土遺物実測図	20
第28図	2004-02地点出土遺物写真	20
第29図	2004-05地点西壁断面図	21
第30図	2004-05地点柱穴断面図	21
第31図	2004-05地点トレンチ2遺構平面図	21
第32図	2004-05地点トレンチ1全景写真	21
第33図	2004-05地点トレンチ1西壁断面写真	21
第34図	2004-05地点トレンチ2写真	22
第35図	2004-06地点トレンチ写真	23
第36図	2004-07地点トレンチ東壁断面図	23
第37図	2004-07地点トレンチ写真	23
第38図	虫取遺跡 調査区位置図(1:10,000)	24
第39図	2004-01地点南壁断面写真	25
第40図	2004-01地点南壁断面図	25
第41図	2004-08地点トレンチ写真	25
第42図	2004-08地点南壁断面写真	25
第43図	2004-08地点北壁断面図	25
第44図	2004-09地点トレンチ写真	26
第45図	2004-09地点北壁断面写真	26
第46図	2004-09地点南壁断面図	26
第47図	虫取遺跡・穴田遺跡 調査区位置図(1:10,000)	27
第48図	2004-15地点トレンチ写真	28
第49図	2004-15地点西壁断面写真	28
第50図	2004-15地点西壁断面図	28
第51図	2004-16地点トレンチ写真	29
第52図	2004-16地点東壁断面写真	29
第53図	2004-16地点東壁断面図	29
第54図	2004-17地点トレンチ写真	30

第55図	2004-17地点北壁断面写真	30
第56図	2004-17地点西壁、北壁断面図	30
第57図	2004-03地点北壁断面図	31
第58図	2004-03地点遺構平面図	31
第59図	2004-03地点遺構平面・断面図	31
第60図	2004-03地点出土遺物実測図(1)	32
第61図	2004-03地点出土遺物実測図(2)	33
第62図	2004-03地点出土遺物実測図(3)	34
第63図	2004-03地点出土遺物実測図(4)	35
第64図	2004-03地点出土遺物実測図(5)	36
第65図	2004-03地点出土遺物実測図(6)	37
第66図	2004-03地点出土遺物実測図(7)	38
第67図	2004-03地点出土遺物実測図(8)	39
第68図	2004-03地点出土遺物実測図(9)	40
第69図	2004-03地点出土遺物実測図(10)	41
第70図	2004-03地点出土遺物実測図(11)	42
第71図	2004-03地点出土遺物実測図(12)	43
第72図	2004-03地点トレンチ写真	44
第73図	2004-03地点出土遺物写真(1)	46
第74図	2004-03地点出土遺物写真(2)	47
第75図	2004-03地点出土遺物写真(3)	48
第76図	2004-03地点出土遺物写真(4)	49
第77図	東雲遺跡・池浦遺跡 調査区位置図(1:10,000)	50
第78図	2004-11地点南壁断面図	51
第79図	2004-11地点トレンチ写真	51
第80図	2004-11地点西壁断面写真	51
第81図	2004-13地点東壁断面図	51
第82図	2004-13地点トレンチ写真	52
第83図	2004-13地点東壁断面写真	52
第84図	城の山跡 調査区位置図(1:10,000)	52
第85図	2004-12地点トレンチ写真	53
第86図	2004-12地点上層断面模式図	53

第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況

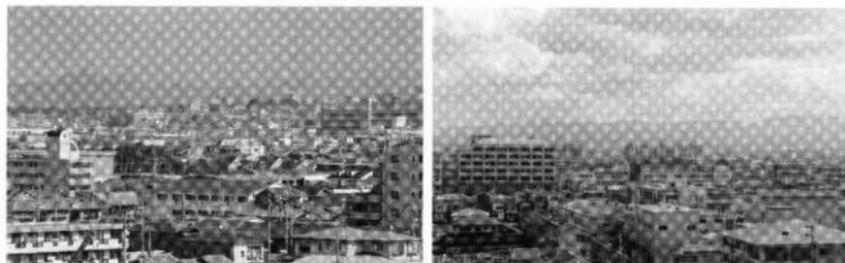
1. 泉大津市の位置と環境

泉大津市は大阪府南部の泉州地域に属する。泉州地域東部には、大阪湾に沿って東西に和泉山脈が連なる。その山脈を源として幾多の河川が北に走行し、大阪湾に注ぐ。これらの河川はそれぞれ開折谷、河岸段丘を形成し、その両側には丘陵地形が南北方向に発達している。その丘陵より北側は平坦で狭小な沖積地が形成されているが、泉大津市はこの沖積地上に立地しており、市域の標高は20m未満である。

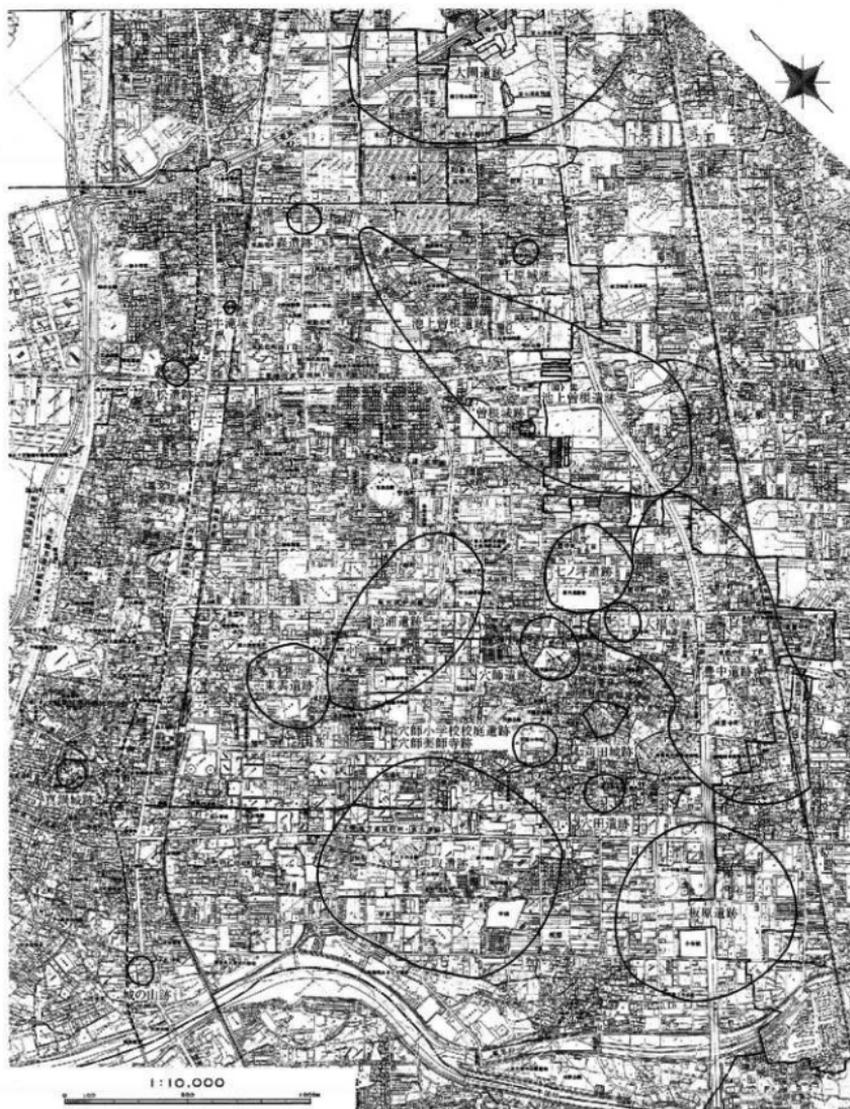
泉大津市は面積12.32km²、人口78,116人である（平成16年12月1日現在）。昭和40年頃から開発が進み、現在は市域全域が市街地化されている。市域は、大阪湾に面した臨海部の工業地域、南海本線から阪和線にかけての住居地域と商工業地域が混在する地域、国道26号線周辺の商業地域に大きく分けることができる。住居地域には、助松の紀州街道沿いと泉穴師神社周辺にそれぞれ風致地区を設けている。近年、臨海部の高層住宅や繊維工場跡地への分譲住宅の建設が進み、市の景観の変化は著しい。いわゆるバブル景気崩壊以後、大規模開発は下火になっているものの、古い民家の取り壊しや木造個人住宅の鉄筋造への建替えなどが進み、町並みにも大きな変化が見られる。



第1図 泉大津市の位置



第2図 市内遠望写真（左：池上曾根遺跡方面、右：壘中遺跡方面）



第3圖 遺跡分布圖

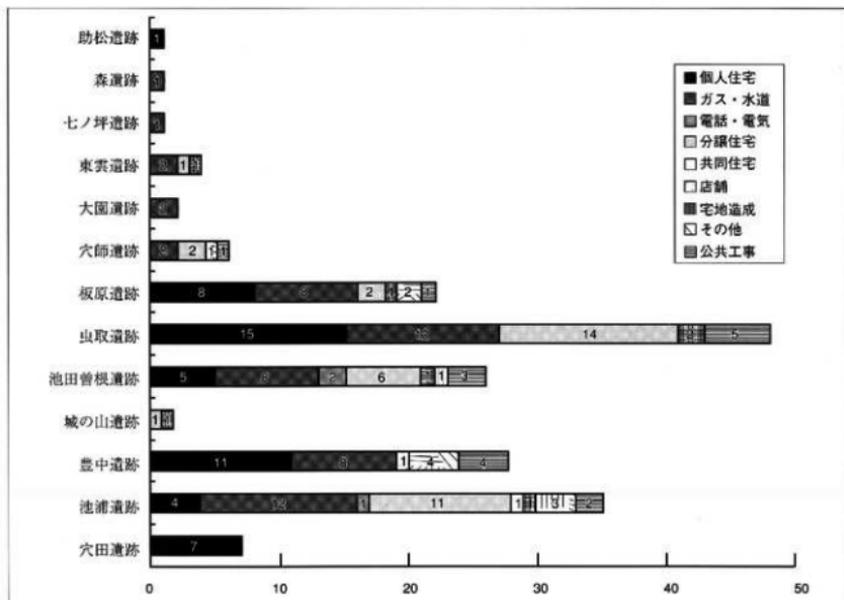
2. 埋蔵文化財調査の現状

本概報は、平成16年1月～12月までに発掘調査を実施したものを掲載対象とする。当該期間内の埋蔵文化財届出件数は183件で、発掘調査件数は17件である。調査件数は、平成13年度12件、平成14年度14件、平成15年度14件と、ここ数年は、微増傾向にある。

第4図は、遺跡別工事件数の内訳である。遺跡別に届出件数をみると、虫取遺跡、池浦遺跡、豊中遺跡の順で多い。

総届出件数に占める工事内容は、ガス・水道・電気・電話を含む個人住宅関連工事が約6割、次いで分譲住宅が約2割を占める。近年の工事種別の特徴としては、老人デイサービスセンターがあげられ、かつては多かった共同住宅は今年度は1件のみである。

本概報で報告する調査は、池上曽根遺跡3件、豊中遺跡4件、虫取遺跡3件、板原遺跡3件、穴田遺跡1件、東雲遺跡1件、池浦遺跡1件、城の山1件の合計17件である。いずれも建物基礎掘削深度が遺構面を損壊する可能性があるため、着工前の確認調査を行ったものである。池上曽根遺跡より墨書銘のある陶器、穴田遺跡より瓦組みの井戸を検出したが、本発掘調査に至ったものはない。



第4図 遺跡別工事内容内訳

表1 発掘調査一覧表

○池上曾根遺跡

調査番号	所在地	用途	届出面積(m ²)
2004-04	森町145-1,149-2,149-3,の各一部、150-2	木造2階建個人住宅	212.4
2004-10	森町2丁目259番、260番1、260番3、261番7、261番9	寄宿舎	1,186.8
2004-14	曾根町1丁目32番の一部	RC2階建個人住宅	250.15

○豊中遺跡

調査番号	所在地	用途	届出面積(m ²)
2004-02	東豊中町1丁目68-1	鉄筋コンクリート2階建個人住宅	322.07
2004-05	豊中町2丁目963-6	鉄骨造2階建長屋住宅	869.29
2004-06	北豊中町3丁目1-1	広告塔	16.72
2004-07	東豊中町2丁目961-10	鉄骨造2階建イサービスセンター	402.02

○虫取遺跡

調査番号	所在地	用途	届出面積(m ²)
2004-01	池浦町1丁目22番1、4、23番1、5	鉄骨平屋建店舗	3,285.27
2004-08	板原町1丁目311-2、312-1の一部、312-6の一部	分譲住宅宅地造成	1,383.64
2004-09	板原町1丁目261-1	木造2階建個人住宅	281.08

○板原遺跡

調査番号	所在地	用途	届出面積(m ²)
2004-15	板原4丁目1235番2	木造2階建個人住宅	106.51
2004-16	我孫子633番、634番	平屋建老人イサービスセンター	740.65
2004-17	板原町4丁目1248番の一部	平屋建倉庫	297.55

○穴田遺跡

調査番号	所在地	用途	届出面積(m ²)
2004-03	我孫子29-1、376の各一部	分譲住宅宅地造成	1,427.25

○栗雲遺跡

調査番号	所在地	用途	届出面積(m ²)
2004-11	旭町88-1	分譲住宅宅地造成	2,968.05

○池浦遺跡

調査番号	所在地	用途	届出面積(m ²)
2004-13	寿町51番、55-1番、355-2番、358-1番、359-1番	ガソリンスタンド	955.28

○城の山跡

調査番号	所在地	用途	届出面積(m ²)
2004-12	高津町133-1、134-1、135、136、137、145-2、146-2	分譲住宅宅地造成	2,152.67

第2章 発掘調査成果

1. 池上曾根遺跡



第5図 池上曾根遺跡 調査区位置図(1:10,000)

池上曾根遺跡は本市曾根町と和泉市池上町に広がり、遺跡範囲約105ヘクタールのうち、約11.5ヘクタールが史跡に指定されている。本市域における遺跡の範囲は、曾根神社以西から森町、千原町の一部を含み、南北に広がりを持つ。史跡指定地以外の地域は、旧村落と昭和40年代以降の開発部分が混在しており、小区画の開発が多く大規模な調査は行われていない。そのため、史跡地中心部の構造に比べ、周辺部は不明な点が多い。今年度は木造2階建て個人住宅建設工事に先立ち2件、寄宿舎建設工事に先立ち1件、計3件の確認調査を実施した。

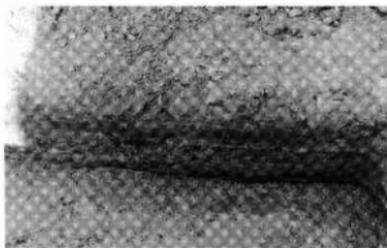
2004-04地点 (森町145-1,149-2,149-3,150-3の各一部、150-2)

当該地は、遺跡の北部に位置する。1万分の1市域図からは、当該地が住宅密集地で、自然堤防上に位置することがうかがえる。木造2階建個人住宅建設が予定されたため、工事に先立って確認調査を実施した。敷地南端に幅1.2m、長さ4mのトレンチを設定し、重機で掘削を行った。現地表土除去後、2. 灰色土 (旧耕作土)、3. 灰白色土 (旧床土) の下層は、すべて砂層及び砂礫層で、4. 灰褐色砂に旧床土が混じる、5. 灰色砂、6. 灰褐色砂、7. 茶褐色砂、8. 暗茶褐色砂礫の順で堆積する。4～7層の堆積の厚さは約50cm。9～11層は、敷地の南隅にあたる部分で攪乱となっている。4～7層より第9図の遺物を検出した。1は弥生土器の鉢である。口縁部に刻み目を巡らせ、体部にヘラ書きによる沈線が3本みられる。2は、土師器甕口縁部で、内面にミガキがみられる。3は、弥生土器の鉢体部と思われる。断面三角形の貼り付け突帯をもつ。4は、有孔鉢底部である。内外面とも摩滅が激しく調整は不明である。遺構は認められない。当該地は自然堤防の西縁辺部にあたり、かつては南北方向の自然河川が流れていた地域と思われる。また、池上曾根遺跡の史跡指定地部分の環濠、自然路路なども比較的近距离にあり、それらの支流の一部とも考えられる。

杭工事が当初予定されていたが、その後、実施しないこととなり、写真撮影、図面作成を行い、本調査をもって終了した。



第6図 2004-04 地点 トレンチ写真

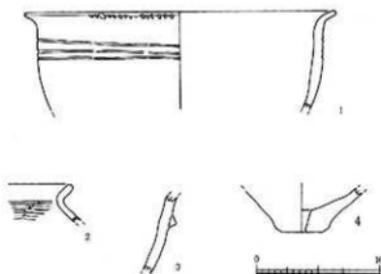


第7図 2004-04 地点 西壁断面写真



- 層名
1. 盛土
 2. 灰色土 (旧耕作土)
 3. 灰白色土 (旧床土)
 4. 灰褐色砂に3層が混じる
 5. 灰色砂
 6. 灰褐色砂
 7. 茶褐色砂
 8. 暗茶褐色砂礫
 9. 新物層
 10. 礎石 (旧床土がブロック状に混じる)
 11. 礎石 (ブロック、電気コードなどが混じる)

第8図 2004-04 地点 西壁断面図



第9図 2004-04 地点 出土遺物実測図

2004-10地点(森町2丁目259番、260番1、260番3、261番7、261番9)

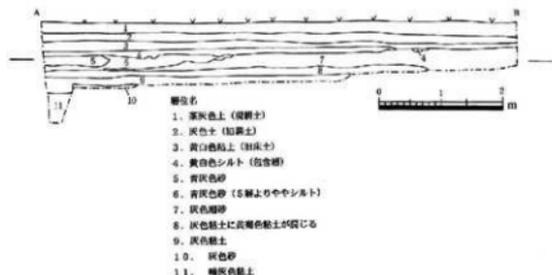
遺跡の北東、2004-04地点の100m東に位置する。寄宿舎建設が予定されたため、工事に先立って調査を実施した。建築予定箇所のほぼ中央に幅1.3m、長さ12mのトレンチを設定し、重機で掘削を行った。地表土は耕土で、以下、2. 灰色土(旧耕土)、3. 黄白色粘土(旧床土)がみられる。この下層の4. 黄白色シルトは遺物包含層で、須恵器、土師器の摩滅の激しい小破片をわずかに含む。以下は、5. 青灰色砂、6. 青灰色砂(5層よりややシルト)、7. 灰色細砂、8. 灰色粘土に黄褐色粘土が混じる、9. 灰色粘土、一部で10. 灰色砂がみられ、11. 暗灰色粘土に至る。11層は現地表土から約1.2mの深さから認められ、50cm以上の堆積がみられる。9層上面で精査を行ったが、遺構は認められなかった。土地所有者によると、当該地南の田は「堂の前」とよばれ、約60年前には瓦、土器片などが地表で散見されたとのことである。これらは、「堂の前」に関連する遺物と思われるが、今回の調査ではそれらに繋がる遺物、遺構は認められなかった。写真撮影と断面図を作成し、調査を終了した。



第10図 2004-10地点 トレンチ写真



第11図 2004-10地点 南壁断面写真



第12図 2004-10地点 北壁断面図

2004-14地点(曾根町1丁目32番の一部)

調査概要 個人住宅建設に先立つ確認調査である。当該地は史跡地の西に隣接し、敷地の西端が一部分史跡となっている。住宅建設予定箇所は史跡地外であった。建設予定箇所でも最も史跡に近い部分に南北方向にトレンチ1を、これに平行して8m西にトレンチ2を設定した。

トレンチ1は、現地表土の1. 黒茶色土、その下層に2. 茶色土、3層は同じく茶色土であるが、2層に比べやや砂質で鉄分が沈着して茶色味が強い層である。1層から茶褐色土に円礫と植物根を含む5層がある。近世以降の掘削であろう。2・3層からは、瓦を検出。この下層に4. 灰色砂が堆積するが、湧水が激しくみられる。6. 灰色砂に茶色砂が斑らに入る、6層からは土師器を検出したが、遺構は認められなかった。トレンチ南隅に0.5×2mの規模で下層確認のために掘削を行った。4層以下、7. 灰色砂で鉄分を含む茶色砂が混じる、11. 7層のシルト、12. 白灰色粘土、13. 暗黒色粘土で砂礫が混じる。7層からは羽釜、13層からは土師器、石を検出した。土師器と石2つは、ほぼ同レベルで検出した。この層で精査を行ったが、遺構は認められない。

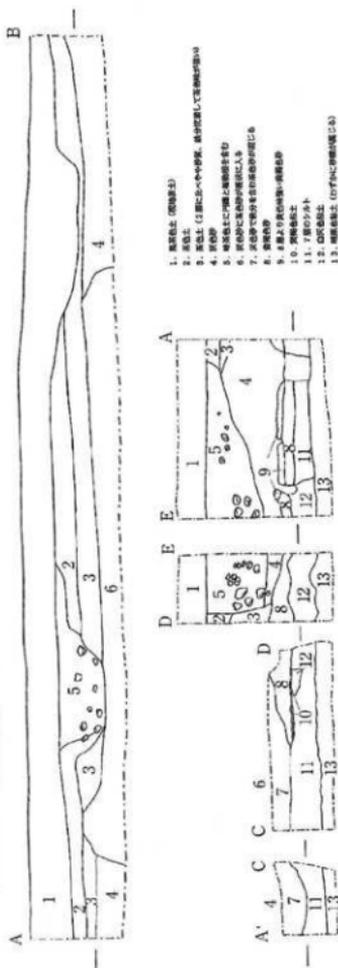
トレンチ2の層位は、1. 現地表土、2. 茶色土、4. 茶褐色土で、4層下部から、瓦が敷き詰められた層が見つかった(9層)。瓦は南北3.8m、東西0.8m以上、深さ0.4mの規模で堆積する。湧水が激しく、平面での状態はつかみにくいが、そのほとんどは破片で整然と敷き詰められた状態ではないと思われる。瓦は近世以降のものであろう。トレンチ北には、5. 灰色土、6. 茶褐色砂、7. 暗茶褐色砂がみられる。6層及び7層からは土師器皿を検出した。トレンチ1と同様に下層確認のため、トレンチ南隅に0.5×2mの規模で掘削を行った。瓦の下層は、12. 茶灰色土、11. 茶褐色土で、18. 黒灰色土に至る。瓦層検出面で、底部を上に向けた陶器2点を検出した。底部にはそれぞれ墨書があり、1点は寛政6年とある。当該地は木造の蔵が建っていた場所にあたる。瓦層からは、他の遺物は認められない。

出土遺物 当該調査での出土遺物はコンテナ11箱(第16~18図)である。トレンチ1は、土師器、羽釜などで、トレンチ2は、瓦、陶磁器など近世以降の遺物が多く占める。

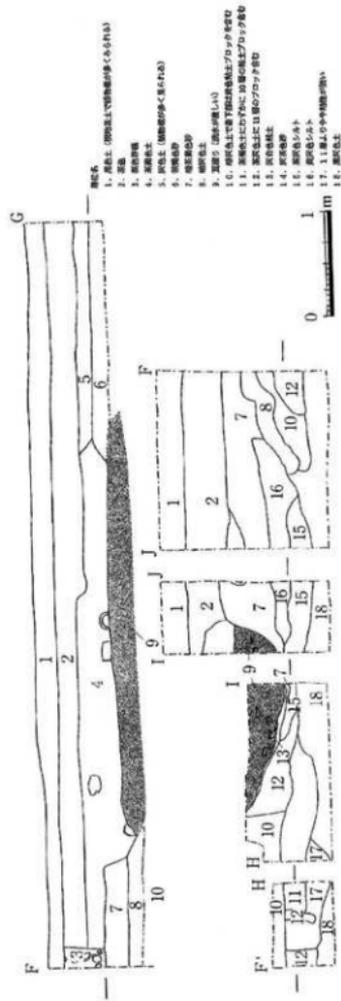
トレンチ1出土遺物 1、2、3は表採で、備前焼の播鉢、碗、軒丸瓦の瓦頭部分である。4~6は2及び3層より検出した。4は瀬戸焼の碗底部、5、6は軒丸瓦の一部である。7~18は6層から検出した。7~10は高杯の脚部である。7は底部充填がみられる。8、9は内面にシボリが、9はスカシが認められる。11は弥生土器の壺と思われる。底部内面の底部に、板状のナデを施す。12、13、15、16は、底部で、15、16は、外面にタタキ目を施す。14は、砲弾型の蛸壺底部である。17、18は外面タタキ、内面ハケを施した土師質の甕である。口縁端部を玉縁状に折り返す。19は7層から検出した土師質羽釜である。20、21は13層掘削中に、23、24とともに検出した。20は外面にタタキのある甕の体部である。21は直線文を巡らす弥生土器壺の頸部と思われる。23、24はいずれも砂岩と思われる。加工痕は認められない。22も砂岩で6層から検出したが、断面に3条のクサビ痕が認められる。

トレンチ2出土遺物 最も多く検出したのは瓦であったが、これらは瓦層の出土である。25~28は7層検出の上師器皿である。30、34は瓦層から検出した陶器である。30は瀬戸焼の鉢で、外面に緑色釉を施す。外面底、高台よりやや内側に「大極上」の墨書がある。34は瀬戸焼の火鉢ある

トレンチ1 西壁断面図



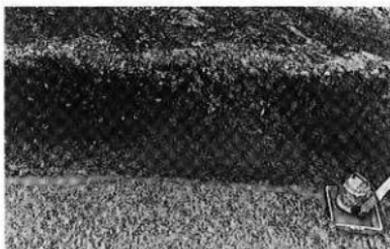
トレンチ2 西壁断面図



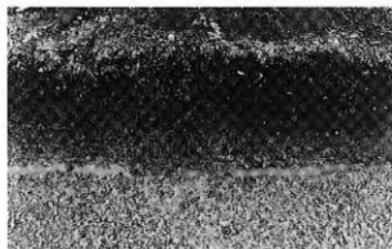
第13図 2004-14 地点 トレンチ断面図



全景写真



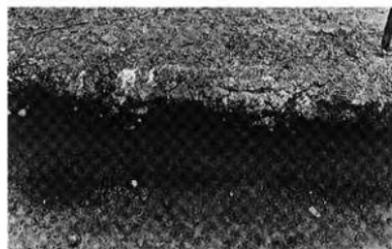
西壁断面写真



西壁断面写真



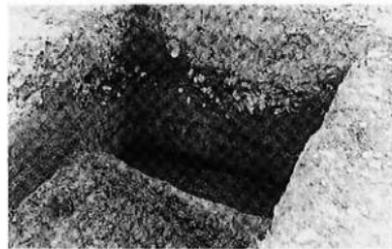
西壁断面写真



東壁断面写真



東壁断面写真



南壁断面写真



北壁断面写真

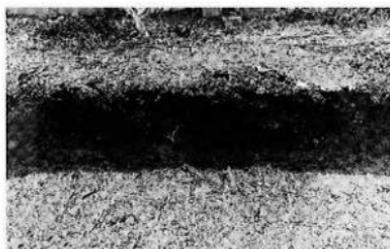
第14図 2004-14 地点 トレンチ1写真



全景写真



西壁断面写真



西壁断面写真



南壁断面写真



北壁断面写真



遺物検出状況写真(東から)

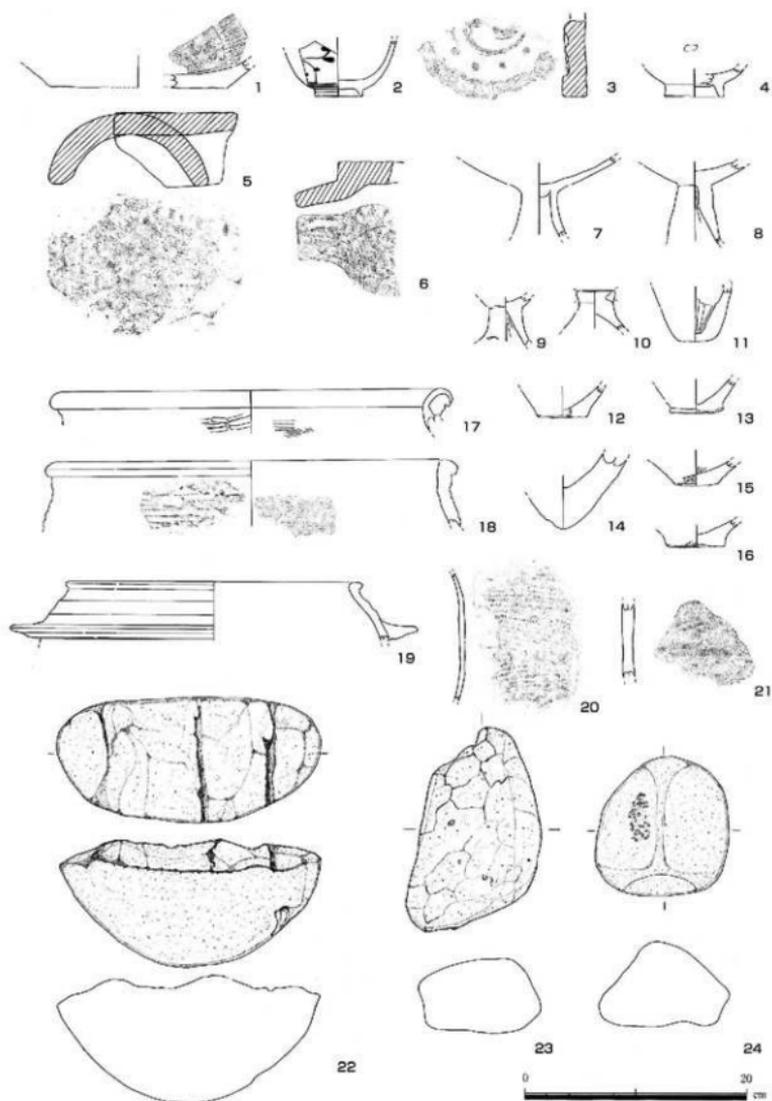


遺物検出状況写真(南側遺物)

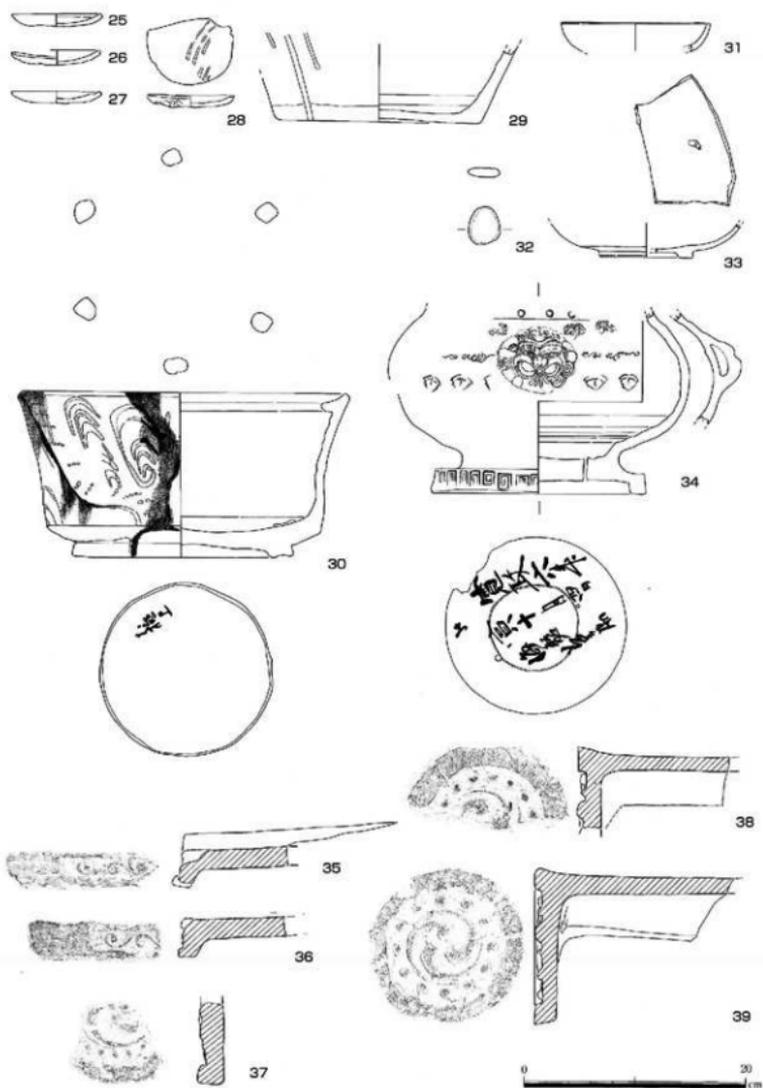


遺物検出状況写真(北側遺物)

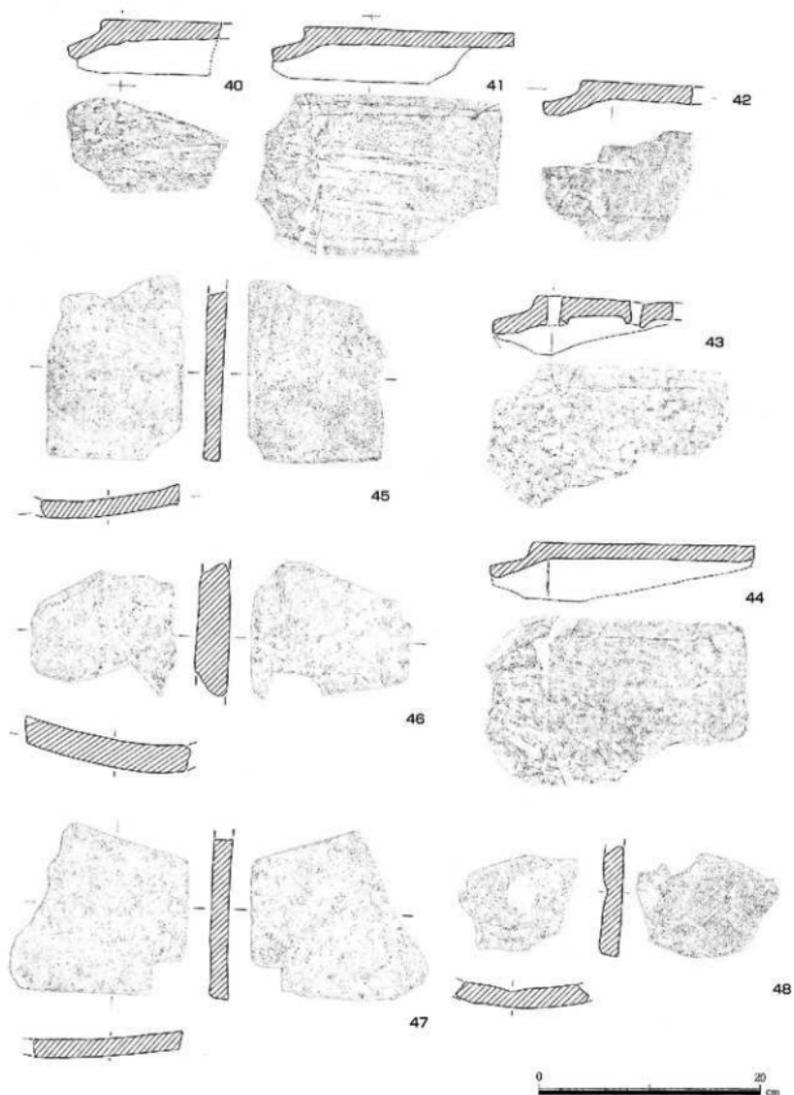
第15図 2004-14 地点 トレンチ2写真



第16図 2004-14 地点 トレンチ1 出土遺物実測図



第17図 2004-14 地点 トレンチ2 出土遺物実測図 (1)



第18図 2004-14 地点 トレンチ2 出土遺物実測図 (2)

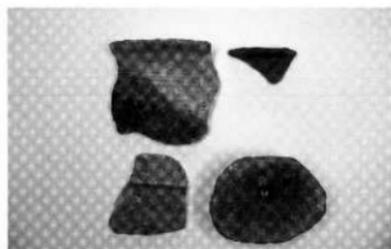
いは瓶掛と思われる。外面に獅子頭を立体的に表現し、口と思われる部分は孔があり環を通していたと思われる。獅子頭の周辺は印花文が、底部外面周辺には雷帯文が施される。外面底の中央に、「寛政六年 寅十月四日 海部や □兵衛」の墨書が認められる。これらは年月日、屋号、名と思われるが、名の一文字目は判読できない。また、この墨書の外側に、「土」或いは「十一」と読める墨書もある。これらの周辺からは、29の瀬戸焼の甕底部、31、33の磁器が検出された。32は縦3.2cm、横2.8cm、厚さ0.8cm、扁平で楕円の黒色小石である。34の内部には、土、炭片、砂利などが詰まっており、32もその一つであった。形状から基石と考えられる。40～48は瓦層の瓦である。軒丸、軒平があり、すべて破片であった。近世以降の瓦と思われる。

まとめ 当該地は史跡池上曾根遺跡に隣接する。当該地北側に隣接する箇所への調査より第V様式～庄内式併行期の遺物がまともに出土したことから（『泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報8』1990年泉大津市教育委員会）、今回も同時期の遺構・遺物の検出が想定された。史跡地に近いトレンチ1の最終面は、現況地表面より約1.8mの深さであったが、ここから第V様式の土器片を検出した。また、同面からは人頭大の石2点を並んで検出した。石周辺及び同面での精査を行ったが、遺構は検出できなかった。一方、トレンチ2では現況地表面より約1.0mの深さで、瓦の破片を敷き詰めた層が見つかり、ここから底部に墨書のある瀬戸焼の鉢と火鉢を検出した。鉢は堺市内で出土例がみられる（『堺市文化財調査概要報告 第75冊 堺環濠都市遺跡発掘調査概要報告』1998年堺市教育委員会）。また、鉢の西側にあった火鉢は、愛知県陶磁資料館所蔵品中に類似品がみられる（『愛知県陶磁資料館所蔵品図録1988』愛知県陶磁資料館1988年、堺市埋蔵文化財センターにてご教示）。それらは、19世紀の緑釉瓶蓋で体部の左右に獅子頭を付ける。底部と同様に垂直に立ち上がる口縁を持ち、外側に折り返す。出土品も同様の特徴を持つ。更に底部に年月日、屋号、名が記される。当家は、「北曾根村物成皆済目録」（元禄8（1695）年12月）（『泉大津市史』第3巻P318掲載）や「北曾根村規定一札」（文化2（1819）年）（『泉大津市史』第3巻P883掲載）より、江戸期に北曾根村庄屋であったが、文書には「海部や」の記述は無く、聞き取りによっても当家との関連は不明であった。当家以外で火鉢の所収者と考えるのが適当であろう。鉢、火鉢とも破損後に廃棄したと思われるが、瓦層の堆積状況から、寛政6（1794）年以降に7層、12層を掘削し、瓦の破片と破損した鉢と火鉢を埋めたと思われる。

建物の地中梁が約0.9mであるため、平板実測、断面図作成と写真撮影を行い調査を終了した。



第19図 2004-04 地点 トレンチ2平面図（左：遺物34、右：遺物30）



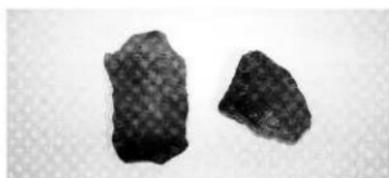
2004-04 地点 1~4



2004-14 地点 17~19



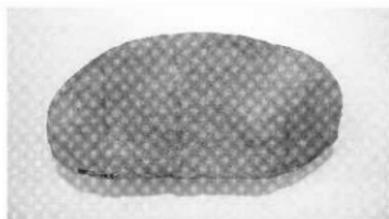
2004-14 地点 1~3



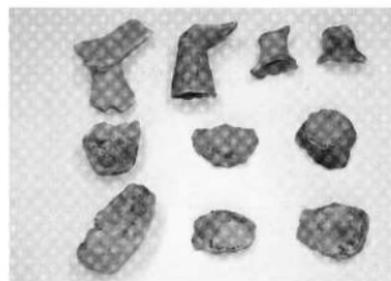
2004-14 地点 20・21



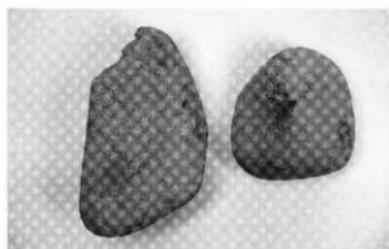
2004-14 地点 4~6



2004-14 地点 22



2004-14 地点 7~16



2004-14 地点 23・24

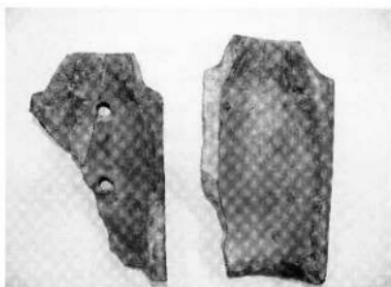


2004-14 地点 25~28

第20图 2004-04 地点 出土遺物写真、2004-14 地点 出土遺物写真(1)



29



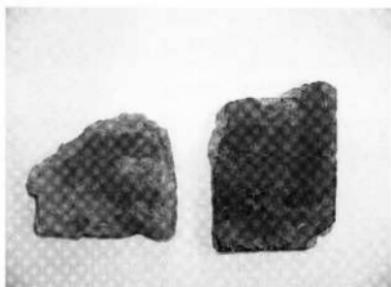
43・44



31~33



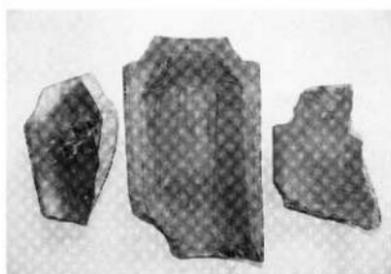
38・39



45・46



35~37



40~42

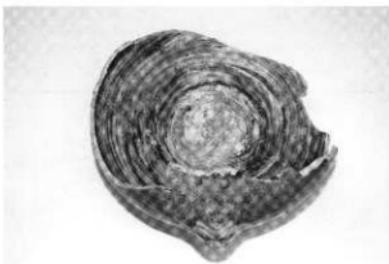


47・48

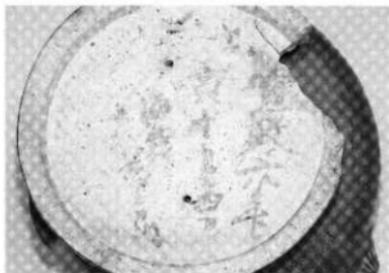
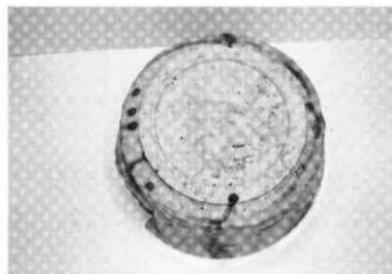
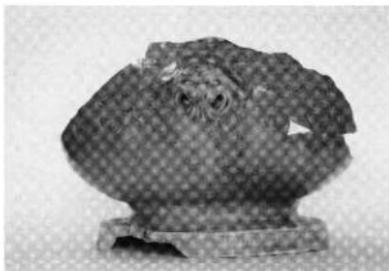
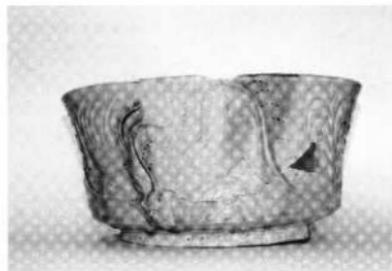
第21図 2004-14 地点 出土遺物写真(2)



30

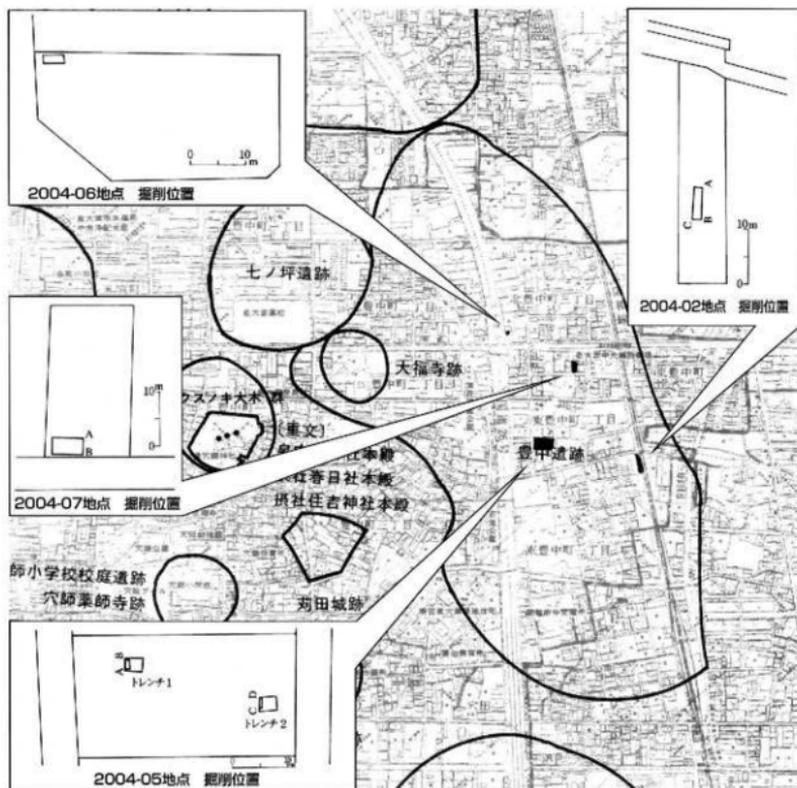


34



第22图 2004-14 地点 出土遗物写真(3)

2. 豊中遺跡

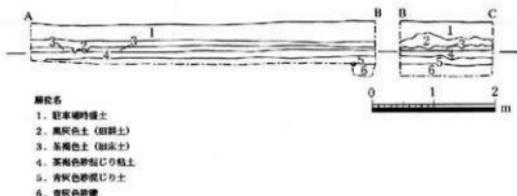


第23図 豊中遺跡 調査区位置図(1:10,000)

豊中遺跡は現在までに最も継続して調査が行われている遺跡で、東西0.6km、南北1.2kmを測る。国道26号線付近は古墳時代の、泉大津中央線付近は平安～中世にかけての集落がみつまっている。中世の遺構として、南北方向に流れる水脈上に井戸が多数見られるのも当遺跡の特徴である。今年度は、個人住宅、長屋住宅、広告塔、デイサービス施設の調査を実施した。全面調査に及ぶ確認調査はなかったが、古墳時代～中世と思われる柱穴を確認できた。

2004-02地点(東豊中町1丁目68-1)

当該地は遺跡南東部に位置し、阪和線に隣接する。鉄筋コンクリート2階建て個人住宅建設が予定されたため工事に先立って確認調査を実施した。敷地中央よりやや南寄りに、幅1.5m、長さ



第24図 2004-02 地点 南壁断面図



第25図 2004-02 地点 トレンチ写真



第26図 2004-02 地点 南壁断面写真



第27図 2004-02 地点 出土遺物実測図 (1/4)



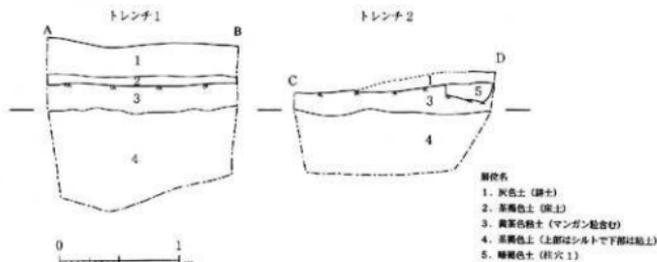
第28図 2004-02 地点 出土遺物写真

5.7mのトレンチを設定し重機で掘削を行った。コンクリート除去後、駐車場時の盛土、黒灰色土(旧耕土)、茶褐色土(旧床土)、茶褐色砂混じり粘土、青灰色砂混じり土、青灰色砂礫まで、ほぼ水平の堆積である。青灰色砂混じり土より須恵器破片、土師器破片を検出した。設計業者が実施したボーリング調査によると、現地表面から6mまで密度の高い青灰色砂礫が続き含水もあるとのことである。旧河川の一部であると思われる。数点の遺物を検出したが、図示し得るのは1点のみで(第27図)、土師器高坏脚部の一部分である。遺構は認められない。建物基礎部分が掘削の最下層まで至らないことを確認して調査を終了した。

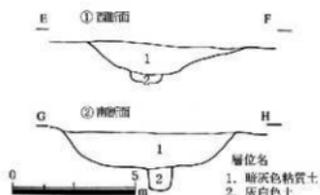
2004-05地点(東豊中町2丁目963-6)

当該地は、遺跡のほぼ中央部に位置する。2階建て長屋住宅建設が予定されたため工事に先立ち確認調査を実施した。建物基礎部分は盛土内におさまり、合併浄化槽設置予定箇所が2箇所あったため、そこにトレンチを設定した。敷地北側をトレンチ1、南側をトレンチ2とし、それぞれ重機で掘削を行った。両トレンチとも同様の層位で、現地表土の耕土を除去すると床土、その下層は黄茶色粘土で地山である。この層は遺構面となる。この下層は茶褐色土に至る。

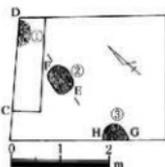
トレンチ2の西壁断面で1基、平面で2基の柱穴を検出した。柱穴の平面形状は長楕円で、長径1.2m、短径0.5m、深さ0.3~0.5m、柱間は1.3~1.6m。柱穴3基は南北方向に一直列に並ぶ。柱穴はトレンチ外にも延び建物を構成すると思われる。柱穴1の埋土は暗褐色土、2、3の埋土は暗灰色粘土。旧床土より土師器、須恵器、瓦器の破片を検出した。柱掘りからの遺物は確認できなかったため、遺構の年代は不明であるが、周辺部の既往調査の結果から古墳時代~中世にかけての柱穴と考える。平板実測、断面図作成、写真撮影を行い、建物基礎部分は遺構面に達しないことを確認し調査を終了した。



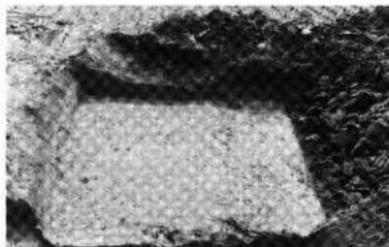
第29図 2004-05 地点 西壁断面写真



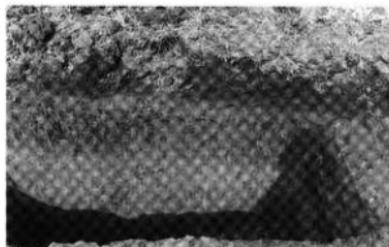
第30図 2004-05 地点 柱穴断面図



第31図 2004-05 地点 トレンチ2遺構平面図



第32図 2004-05 地点 トレンチ1全景写真



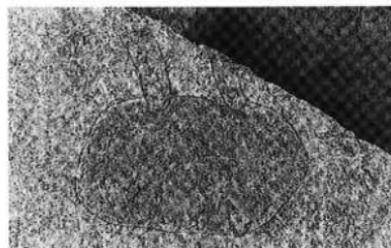
第33図 2004-05 地点 トレンチ1西壁断面写真



遺構検出状況写真



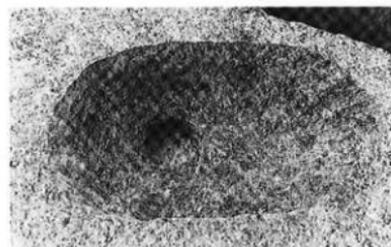
柱穴1検出状況写真



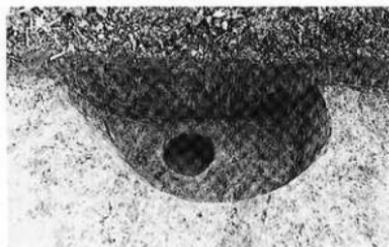
柱穴2検出状況写真



柱穴3検出状況写真



柱穴2完掘写真



柱穴3完掘写真



遺構完掘写真

第34図 2004-05 地点 トレンチ2写真

2004-06地点（北豊中町3-1-1）

遺跡中央のやや北側、国道26号線に東側で接する地点である。高さ13mの広告塔の建設が予定されたため、基礎掘削と同じ深さまで掘削し、確認調査を実施した。現地表面から約2m掘削を行ったが、すべて攪乱となっていた。土層中には、鉄筋、ブロック、コンクリート基礎などが認められた。これらは、昭和50年当初の建物基礎と思われる。雨天のため、写真撮影と断面観察を行い、調査終了とした。



第35図 2004-06 地点 トレンチ写真

2004-07地点（東豊中町2丁目961-10）

遺跡中央よりやや東に位置する。ダイサービスセンターの工事に先立ち確認調査を実施した。浄化槽部分に5.6×3m、深さ1.4mのトレンチを設定し、重機で掘削を行った。層位は上層より、アスファルト、アスファルトに伴う盛土、レンガ、コークスなどが約0.7mまであり、以下、暗黒色土（旧耕土）、6. 青灰色土と7. 黄灰色土（旧床土）がみられる。12. 青灰色シルト、13. 茶色粘土、14. 黄茶色砂混じり土、15. 黄茶色砂礫に至る。13層は摩滅した土師器、須恵器の破片がみられたため精査を行ったが、遺構は認められなかった。トレンチ西側に14層の下層を掘削したが、人頭大の石を含む砂礫層であった。この層からの遺物の検出はない。写真撮影、断面図を作成し調査終了とした。

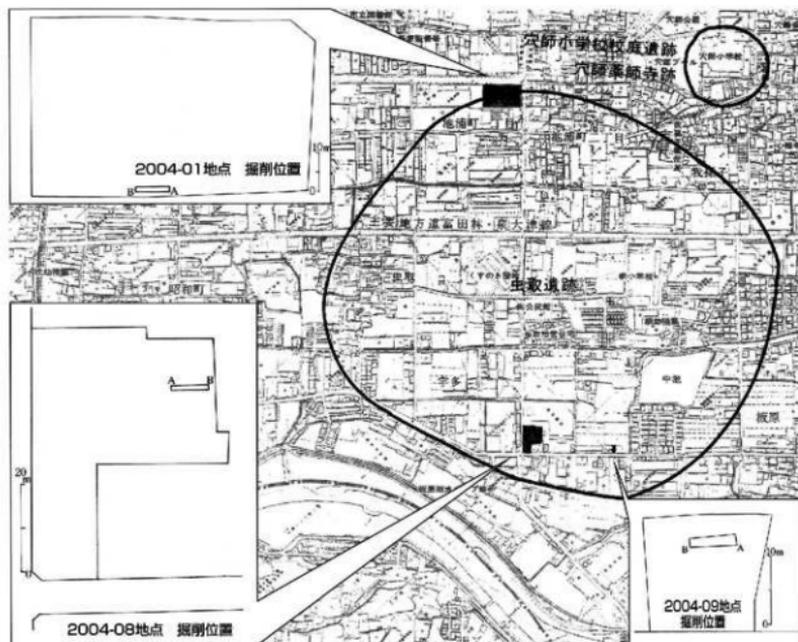


第36図 2004-07 地点 トレンチ東壁断面図



第37図 2004-07 地点 トレンチ写真

3. 虫取遺跡

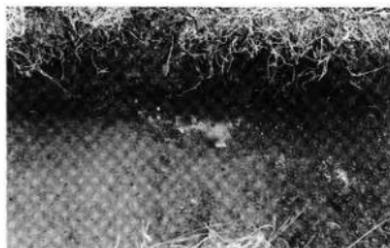


第38図 虫取遺跡調査区位置図 (1:10,000)

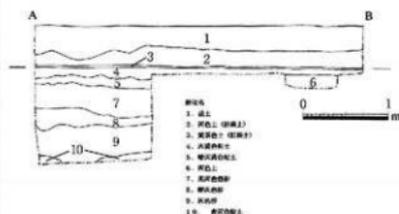
虫取遺跡は池上曽根遺跡に次ぐ面積を有する弥生時代の遺跡である。近年、宅地開発の増加が進む地域で、これまでは顕著な遺構が認められない場合が多かったが、羽釜・瓦器碗などを伴った中世井戸や溝などの中世居館を思わせる遺構を検出し、調査の進展により新たな成果が期待できる遺跡である。今年度は、店舗、分譲住宅建設に伴う宅地造成、個人住宅の3件に先立って確認調査を実施した。

2004-01地点(池浦町1丁目22番1、4、23番1、5)

遺跡の北端に位置する。鉄骨平屋建店舗建設が計画されたため、工事に先立ち確認調査を実施した。1.2m×1.2m×1.2mの基礎が20箇所とそれらを繋ぐ布基礎で構成されるため、これにあわせて重機にて掘削を行った。工場、駐車場の利用を経ているため掘削箇所のほとんどが攪乱を受けており、東側4箇所のみ、第37図に示す土層が確認できた。層位は、盛土、灰色土(旧耕土)、黄茶色土(旧床土)、灰黄色粘土、暗灰黄色粘土、灰色土、黒灰色粗砂、暗灰色砂、青灰色粘土の層に至る。4層の平面で、柱穴かと思われる痕跡が認められたため精査を行い掘削したが、遺構とは認められなかった(6. 灰色土)。遺物は認められなかった。断面図作成、写真撮影を行い調査を終了した。



第39図 2004-01 地点 南壁断面写真



第40図 2004-01 地点 南壁断面図

2004-08地点 (板原1丁目311-2、312-1の一部、312-6の一部)

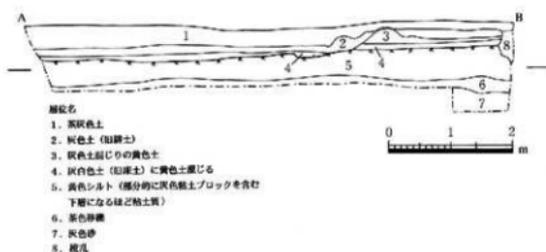
遺跡の南西に位置する。分譲住宅建設に伴う宅地造成工事に先立ち調査を実施した。掘削深度の最も深い汚水管、雨水管設置箇所の掘削を予定していたが、既存建物に地下室があり攪乱となっていたため、道路予定箇所東端にトレンチを設定するにとどまった。層位は、茶灰色土、旧耕土、旧床土の下層は、黄色シルトの地山に至る。以下、茶色砂礫、灰色砂となり湧水が認められる。旧耕土、旧床土にわずかに瓦器片が認められるが、遺構は認められない。写真撮影、断面図の作成を行い調査を終了した。



第41図 2004-08 地点 トレンチ写真



第42図 2004-08 地点 南壁断面写真

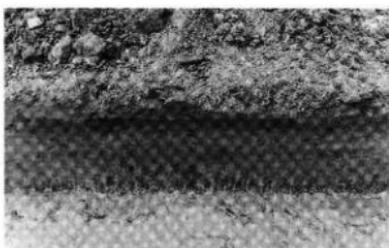


第43図 2004-08 地点 北壁断面図

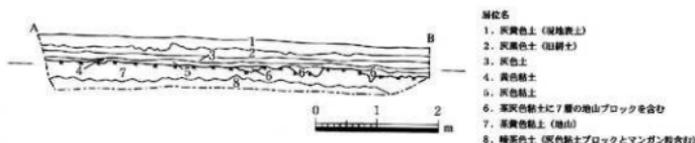
2004-09地点 (板原1丁目261-1)



第44図 2004-09 地点 トレンチ写真



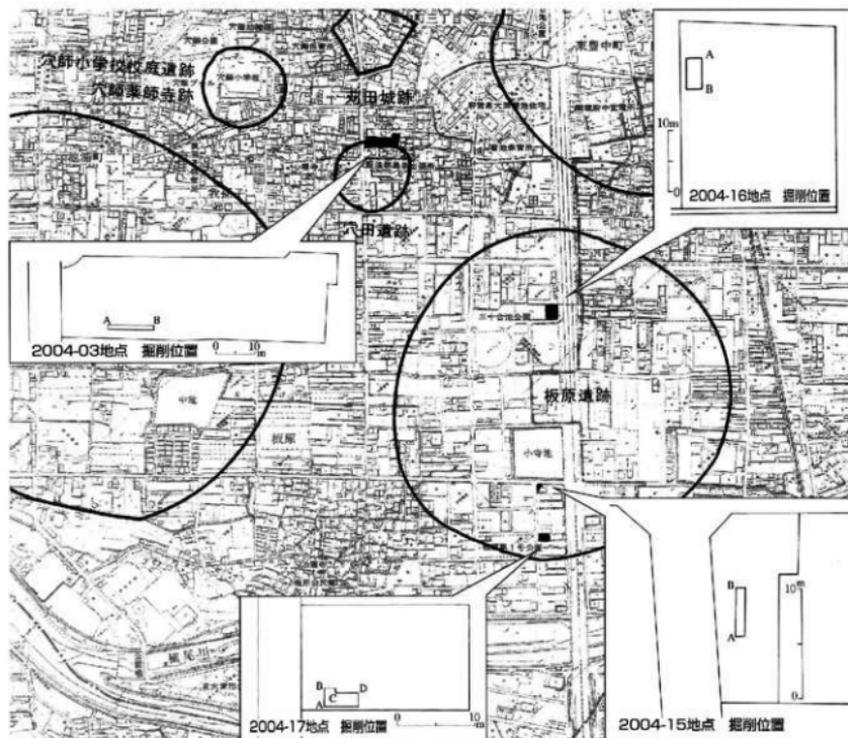
第45図 2004-09 地点 北壁断面写真



第46図 2004-09 地点 南壁断面図

遺跡の南端に位置する。木造2階建て個人住宅建設の地盤改良が予定されたため工事に先立ち調査を実施した。敷地の中央よりやや北側に、幅1.2~1.6m、長さ7mの規模のトレンチを設定した。地盤改良は現地表面から約1mまで行う予定であるため、同様の深さまで重機で掘削を行った。現地表土の下層は、灰黒色土(旧耕作土)、灰色土、灰色粘質土で、地山の茶黄色粘土に至る。この下層は暗茶色土で湧水がみられる。5層は遺物包含層で瓦器、土師器、須恵器の破片がわずかに認められるが、摩滅が非常に激しい。地山部分で部分的に茶灰色粘土が認められたため、地山を精査し遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。写真撮影と断面図の作成を行い、調査を終了した。

4. 板原遺跡・穴田遺跡



第47図 板原遺跡・穴田遺跡 調査区位置図 (1:10,000)

板原遺跡は、本市板原を中心とし、東南部では和泉市肥子町にまたがる遺跡である。国道26号線の整備に伴う調査により縄文時代の流路や鎌倉時代の掘立柱跡などを検出している。その後の調査では明確な遺構の検出はみられなかったが、昨年度の調査で瓦器碗小片・羽釜小片の出土とともに、中世における耕作状況がうかがえる素掘小溝群が検出された。今年度は、個人住宅、サービスセンター、倉庫の3件について確認調査を実施した。

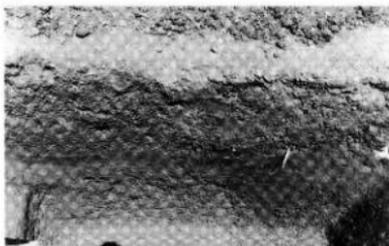
穴田遺跡は、府営泉大津要池住宅の西側、棋尾川から約1km北に位置する。昭和31(1956)年、羽釜を積み上げた井戸跡がみつき、府立泉大津高校地歴部により緊急発掘調査が行われ、中世の集落跡の存在が推定されるに至った。これを契機として井戸発見地点から東西150m、南北150mの範囲を穴田遺跡とした。今回は、宅地造成に伴い確認調査を実施したが、下部は矢板を井筒とし、上部を瓦組みとする井戸を検出した。

2004-15地点 (板原4丁目1235番2)

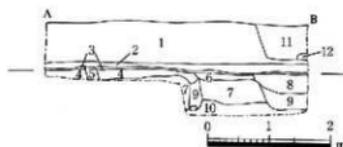
個人住宅建設に先立って調査である。遺跡中央よりやや南側、小寺池の南に位置する。敷地の中央に幅1m、長さ4.5mのトレンチを設定し、深さ1~1.5mまで重機で掘削を行った。上層から約60cmは宅地の盛土で、その下には旧耕土、旧床土が残る。旧耕土は10cm足らずで削平されているようである。この下層に瓦器を含む黄灰色シルトが堆積するが、この層は南側だけでみられ、北側ではスサ混じりのレンガ片を多く含む攪乱層である。トレンチ最終面には暗灰色砂、灰色砂がみられる。当該地は昭和50年代前半に区画整理が行われた区域内であるが、旧耕土下はその影響が無いようである。土地所有者の話では、区画整理時以前はこの付近に国道26号線方面から西方向に川が流れていたとのことであるがその痕跡は不明で、トレンチよりも北側であったと思われる。写真撮影、断面図作成を行い、調査を終了した。



第48図 2004-15 地点 トレンチ写真



第49図 2004-15 地点 西壁断面写真



層番号

1. 盛土
2. 暗灰色土 (旧耕土)
3. 黄灰色土 (旧床土)
4. 黄灰色シルト
5. 黄灰色砂
6. 黄灰色シルトに灰色砂含む
7. 暗灰色砂
8. 攪乱 (黄灰色シルトにスサ混じりの約厚3cm程度のレンガ片含む)
9. 黄灰色シルト (4層よりやや砂質)
10. 灰褐色
11. 盛土
12. 白色土 (しゅくい)

第50図 2004-15 地点 西壁断面図

2004-16地点 (我孫子633番、634番)

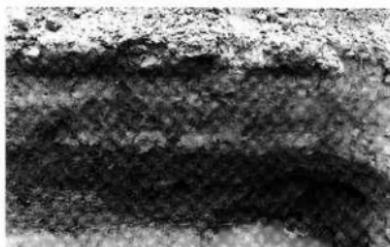
遺跡中央よりやや北側位置し、国道26号線側道に面する。平屋建老人デイサービスセンター建設が予定されたため工事に先立ち、調査を実施した。国道面にあわせて敷地全体に1.4mの盛土があるため、盛土より下層に掘削が及ぶ浄化槽部分2.5×5mのみ調査を実施した。盛土除去後、旧耕土と旧床土が残る。以下、灰褐色土を基調とし、灰色粘土ブロックを含む層と含まない層が交互に堆積し、その下層は砂礫層 (8、11、12層) である。8層の下層は9. 黄褐色粘土、10. 青灰色粘土を肩とした流路がみられ、11、12層は流路内である。この流路はトレンチを東西に横切っている。遺物は認められない。

国道側道に面した箇所は、ほぼ全面に盛土がされているようであるが、盛土下層には旧地層が

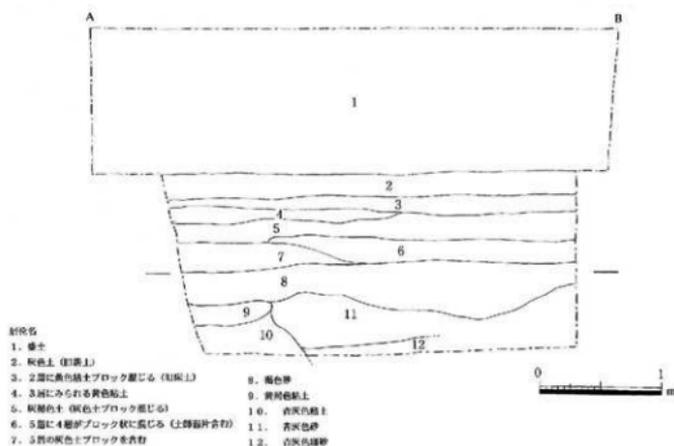
確認できた意義は大きい。写真撮影、断面図実測を行い、調査を終了した。



第51図 2004-16 地点 トレンチ写真



第52図 2004-16 地点 東壁断面写真



53図 2004-16 地点 東壁断面図

2004-17 地点 (板原町4丁目1248番の一部)

遺跡の南端に位置する。2004-16地点より100m南である。平屋建倉庫建設が予定されたため、確認調査を実施した。敷地南隅にL字に長さ4.5mのトレンチを設定し、基礎掘削に併せて1.2mまで重機にて掘削を行った。表土は盛土で茶褐色土である。その下層に黄色シルトが20cm堆積し、灰白色粘土が50cm以上堆積する。この層は地山で、下層にいくほど粘性が強い。遺構・遺物は認められない。当該地付近は、表土直下から灰白色粘土が厚く堆積する地層がみられることが多い。写真撮影・図面作成を行い調査を終了した。



第54図 2004-17 地点 トレンチ写真



第55図 2004-17 地点 北壁断面写真



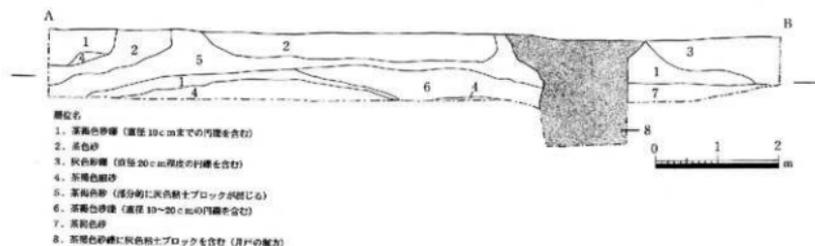
第56図 2004-17 地点 西壁、北壁断面図

2004-03地点 (我孫子29-1、376の各一部)

調査概要 遺跡の北端に位置する。分譲住宅建設に伴う宅地造成工事が予定されたため、工事に先立ち調査を実施した。敷地の南部分に埋管が予定されたため、幅1m、長さ11.7mのトレンチを設定し重機で掘削を実施した。トレンチの西端から約7mの地点で瓦が多数みつかったため、重機をとめて人力掘削を行い、井戸を検出した。井戸の掘方は、重機掘削で崩れたが、残存する掘方より平面形態は、一辺約1.5mの隅丸方形であると想定できる。断面にみる掘り方は、現地表面から約0.6mですばまり瓦を10段前後積み上げる。掘り方は、灰色粘土ブロックを含む茶褐色砂礫である。瓦の下層は、南北60cm、東西70cmの楕円形の井筒で、長さ80~90cm、幅9.5~10cmの矢板を全周で21枚井戸底まで巡らせる。地表面から約1.6m下で青灰色砂に達している。

トレンチ全般では、地表面から50cm前後、茶褐色砂礫、茶色砂、灰色砂礫などの砂礫層の堆積が認められ、その下層も砂礫層が堆積している。

出土遺物 コンテナ13箱の遺物を検出した。井戸内からの出土は、土師器、陶磁器、瓦、木製品などで土器類は極めて少量である。瓦は2点以外は平瓦で、掘り方内に積み上げられていた瓦であるが、井戸内より検出したものもあった。重機掘削時に崩れた瓦が内部に入り込んだと思われる。1と2はトレンチ西隅、4層からの出土である。1は直径7.2cmの瓦器碗である。2は羽釜で口径33.2cm、土師質である。3~7は井戸掘り方から検出した。3~5は瓦器で、6と7は土師器である。以下は井戸内部から検出した。8は直径3.6cmの上錘である。表面は摩滅が激しい。9、10は瓦器である。11は土師器で直径7.2cm、完形で検出した。12と13は石で、灰色粘土層から検出した。使用痕跡は認められない。14は木製品で残存長65cm、ほぼ完形であるが両端はわずかに欠損している。下部はやや尖り気味に加工し、そこから約1.5cm先で枝分かれを利用して3つ又にしている。3つ又の枝の一箇所は欠損、残り2箇所の枝は長さ5.6cmと6.7cmで、枝の先端は斜めに



第57図 2004-03 地点 北壁断面図

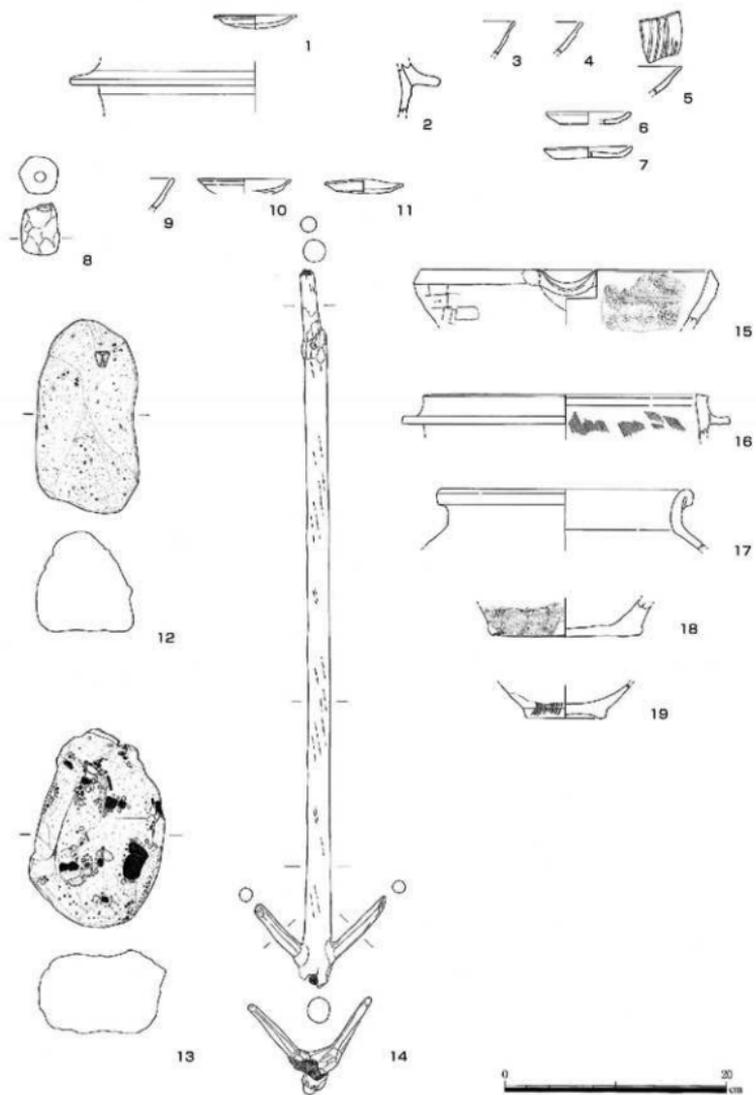


第58図 2004-03 地点 遺構平面図

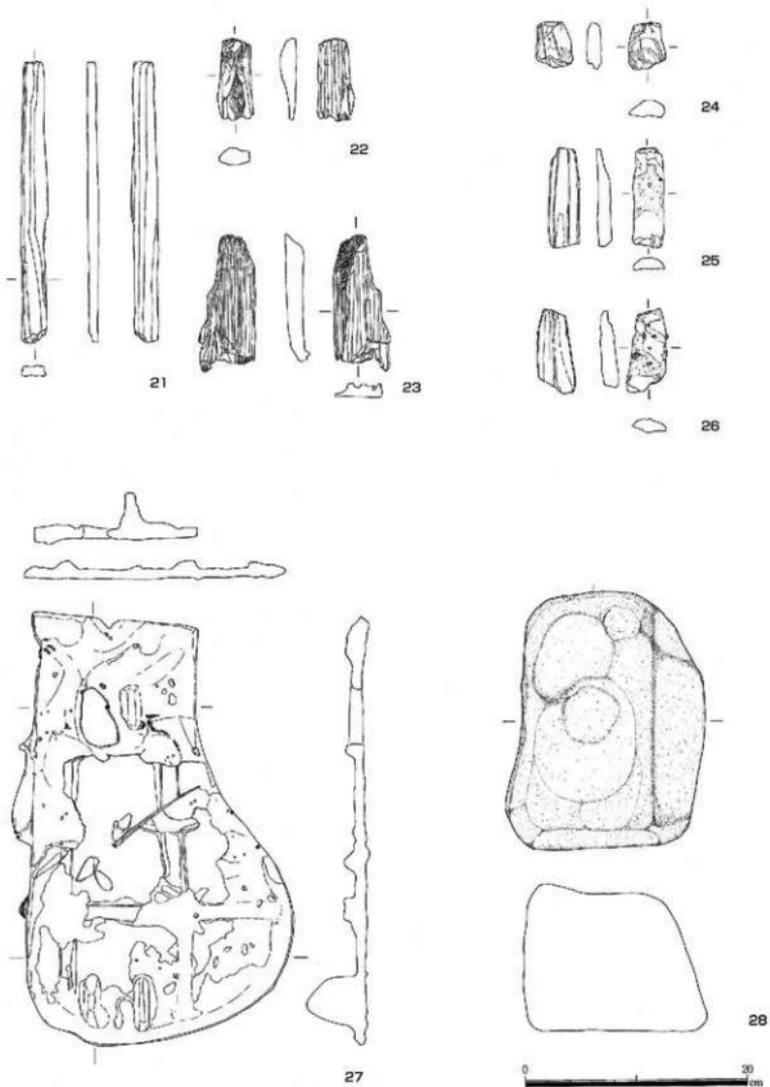


第59図
2004-03 地点
遺構平面・断面図

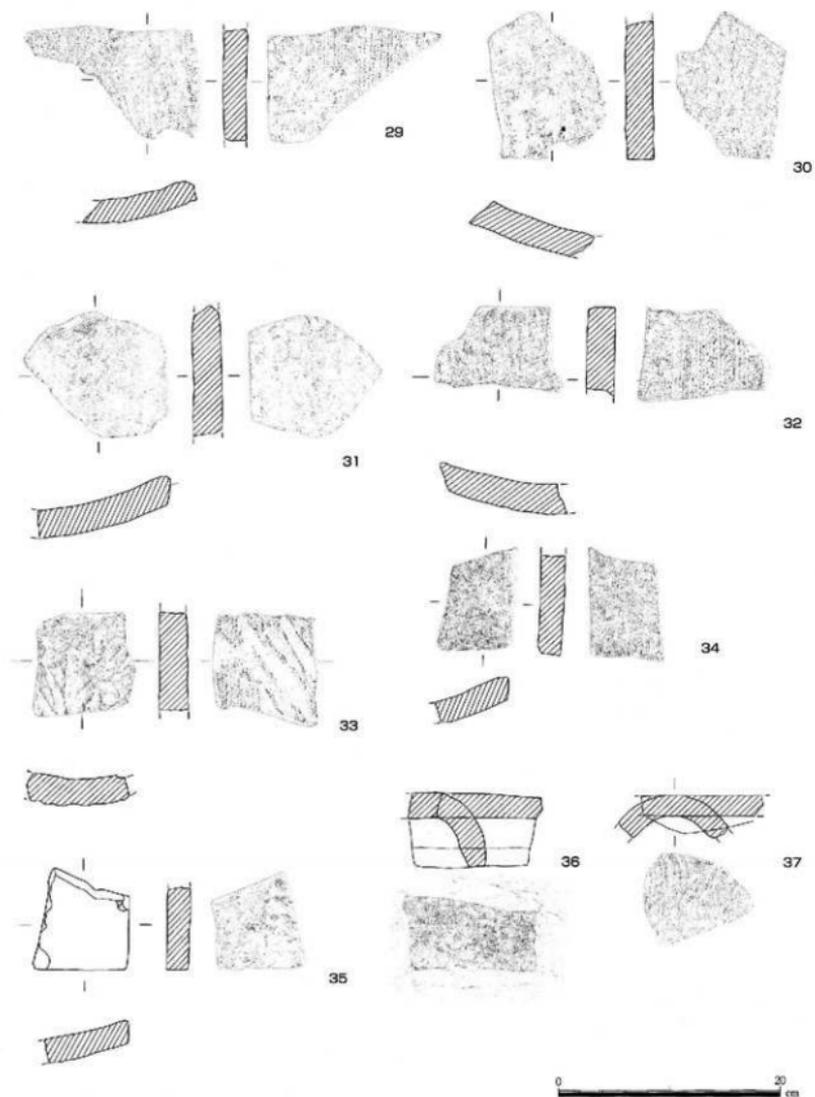
仕上ている。ここから約54cm先で一度細く削っているが、この部分には枝の痕跡がみられ、枝を落としたと思われる。更に細く削り、最先端部は面取りを施している。用途は不明である。樹種については、巻末にて報告を行う。15は瓦質の楯鉢で、片口である。16は瓦質の羽釜で、口縁端部上面は平坦である。17は備前焼の壺口縁部で、18がその底部の可能性もある。19は青白磁器で、チリメン状の掻き目が高台付近にみられる。20は哺乳類の骨で残存長21cm、牛か馬のものと思われる。21~23は、井筒の一部である。24~26は幅2.6~3.2cm、残存長9.0cmの土製品で井筒の矢板の間に埋め込まれていた。井戸内側の面は全体に丸みがあり小石や砂が目立つが、矢板に貼り付く面は平滑に仕上げられている。矢板の隙間を塞ぐための目地と思われる。27は鋳造品で、最下層から検出し、突起の無い平らな面が上であった。幅14.2~22.1cm、最大長38.8cm。片側に膨らみをもたせた形状をしているが、全体に錆びが激しく元の形状が判然としない。片面に格子状の突起が、上部に孔と突起がそれぞれ一箇所と、下部に突起が2箇所みられる。用途は不明であるが、類似した形状の鉄製品が高石市教育委員会に収集されており、犁や鍬類の刃の一部ではないかと想定される。28は砂葺である。上面に2箇所の窪みがみられる。瓦は219点検出した。井戸内部からと、重機掘削時に検出したものがあつたが、もとは井戸として組み上げた瓦であつたと思われる。完形のものはないが、遺存状態の良い61点を図化した(第62~71図)。凹面に布目痕及び模骨痕、凸面に縄目タタキ、両面に離れ砂、糸切り痕などがみられる。火を受けたものも数点みられる。



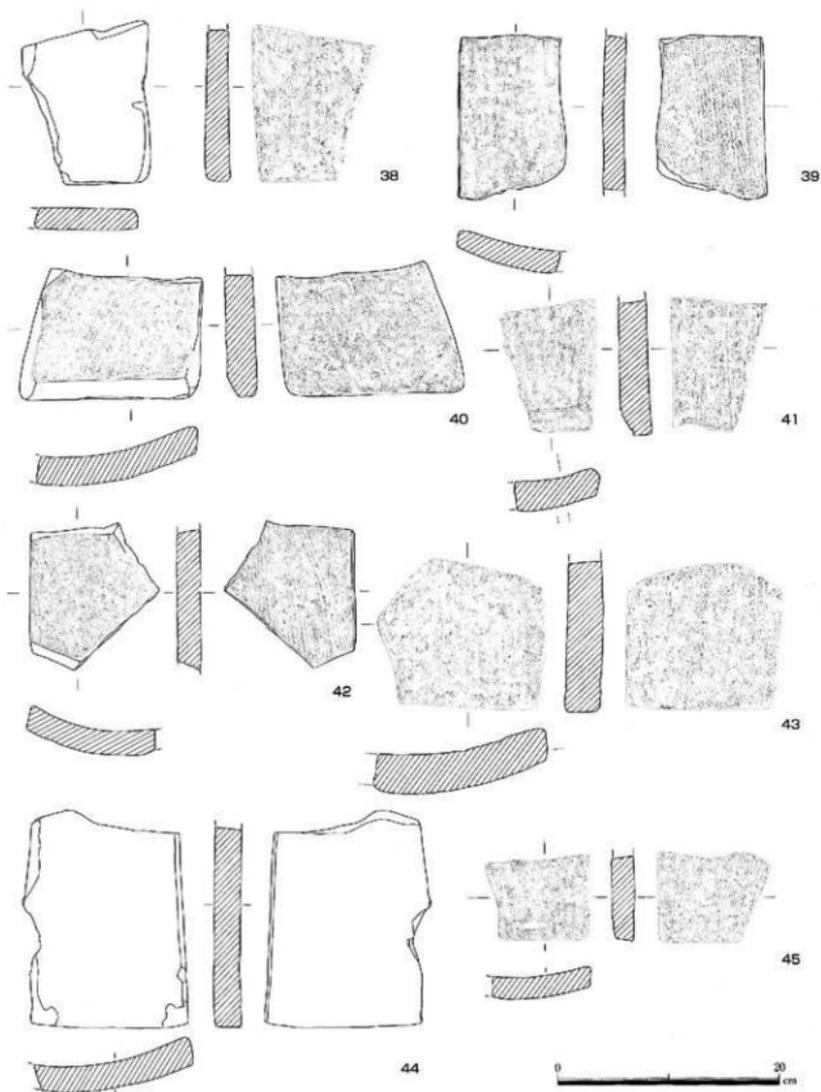
第60图 2004-03 地点 出土遗物实测图 (1)



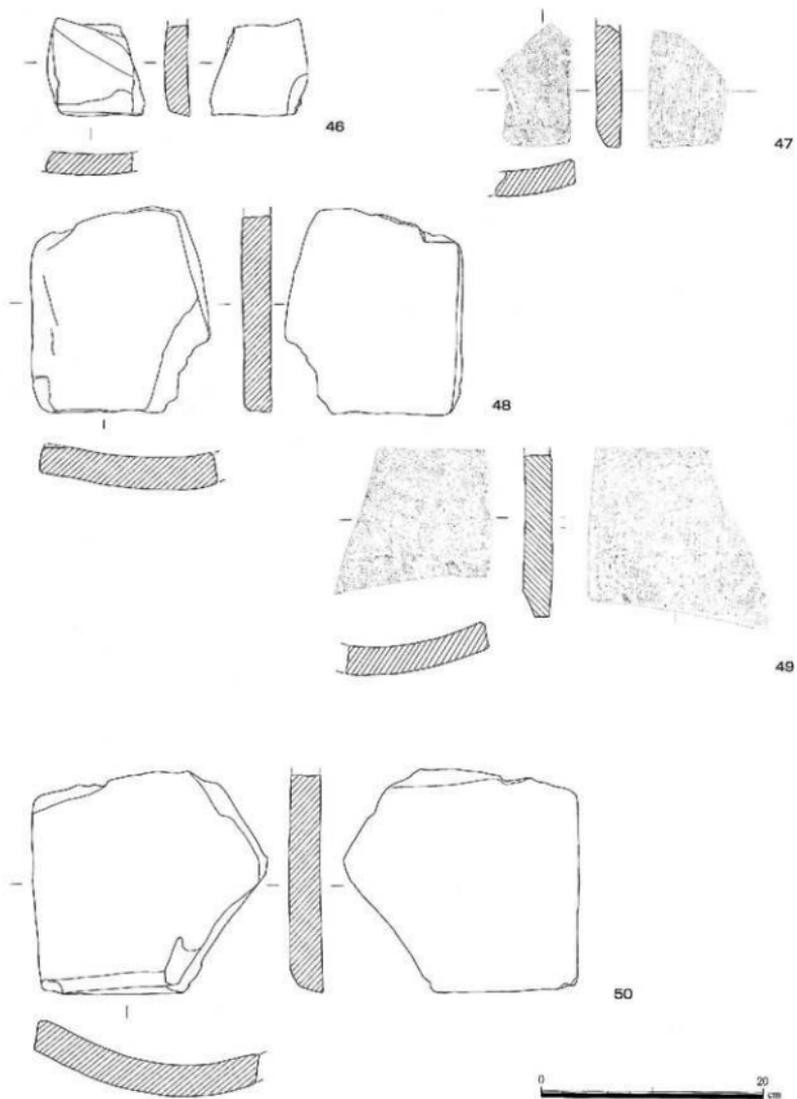
第61图 2004-03 地点 出土遗物实测图(2)



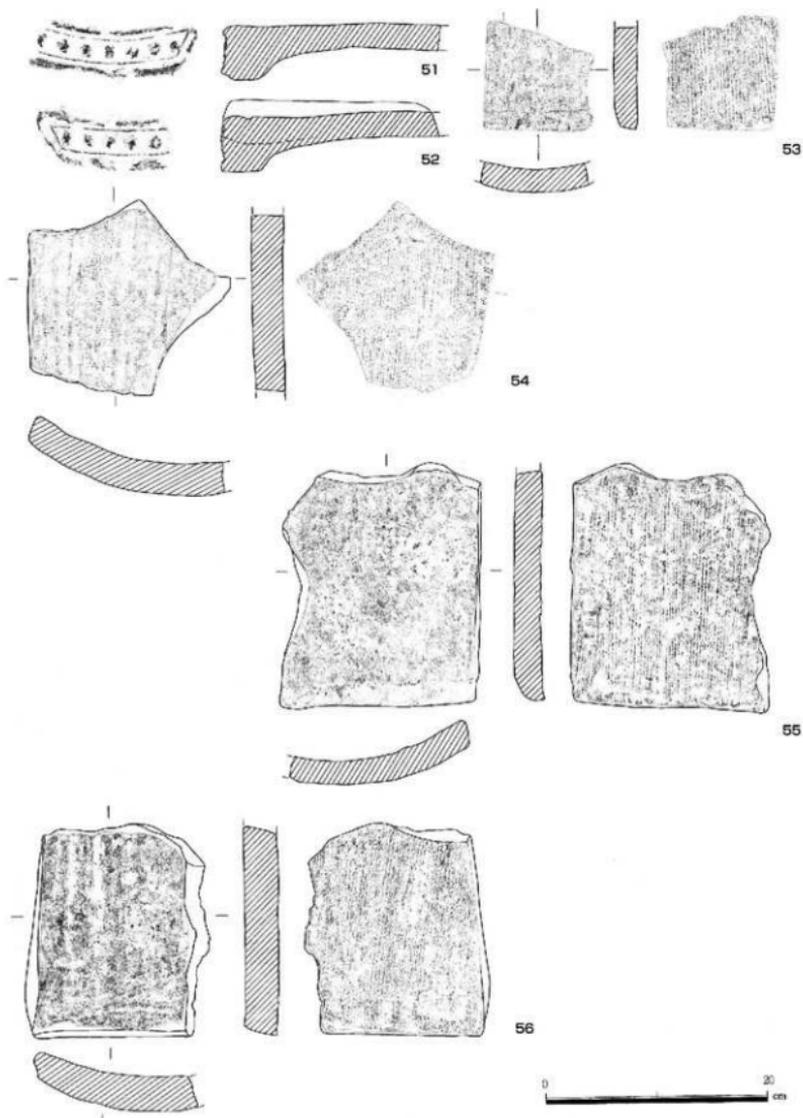
第62图 2004-03 地点 出土遺物実測図(3)



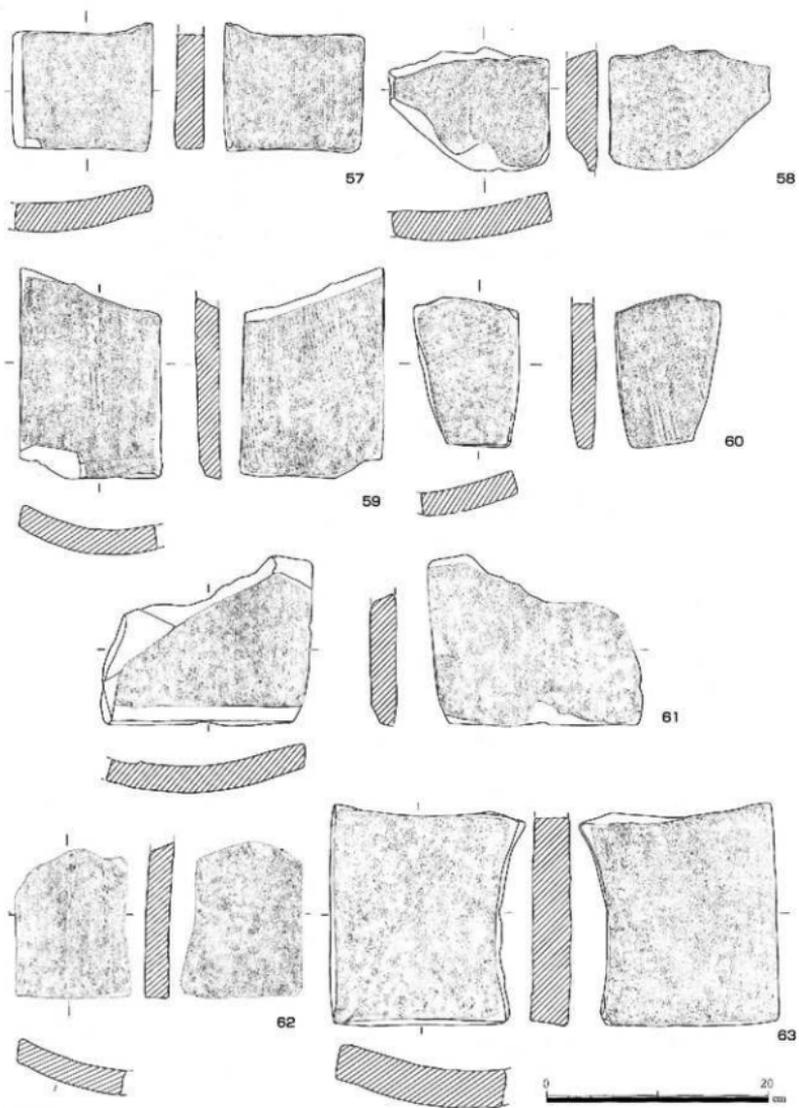
第63图 2004-03 地点 出土遗物实测图 (4)



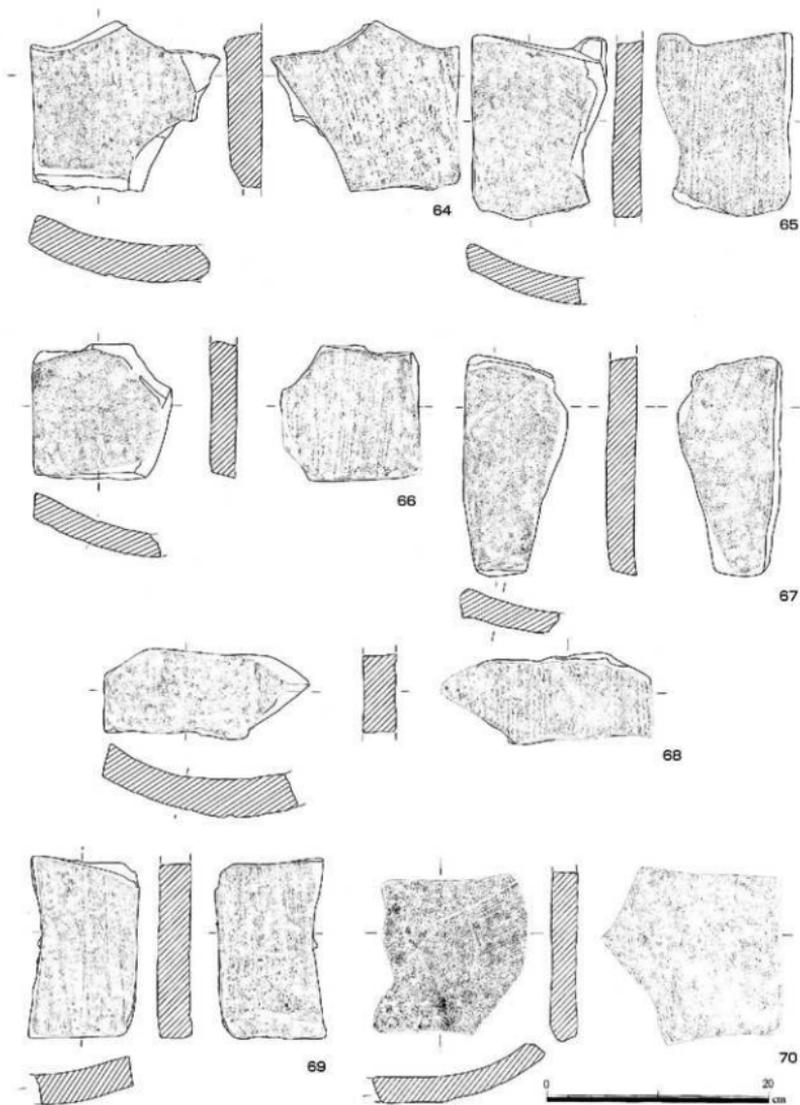
第64图 2004-03 地点 出土遺物実測図 (5)



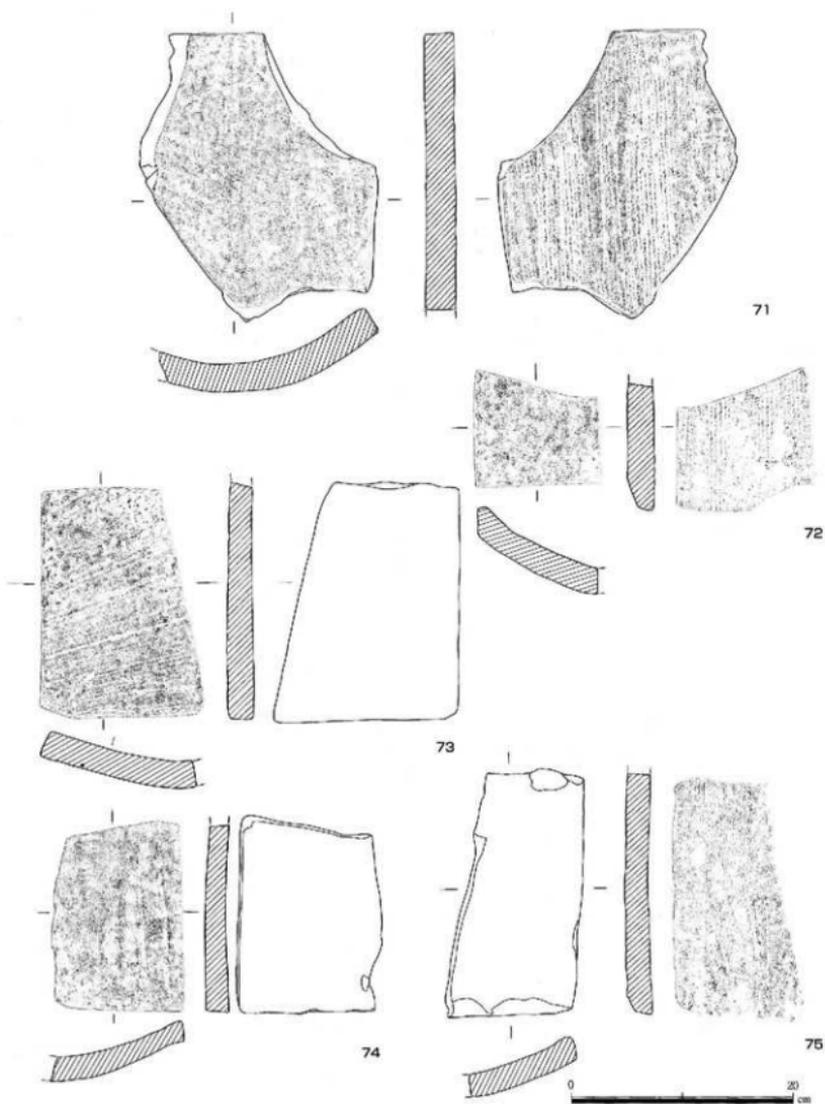
第65图 2004-03 地点 出土遗物实测图 (6)



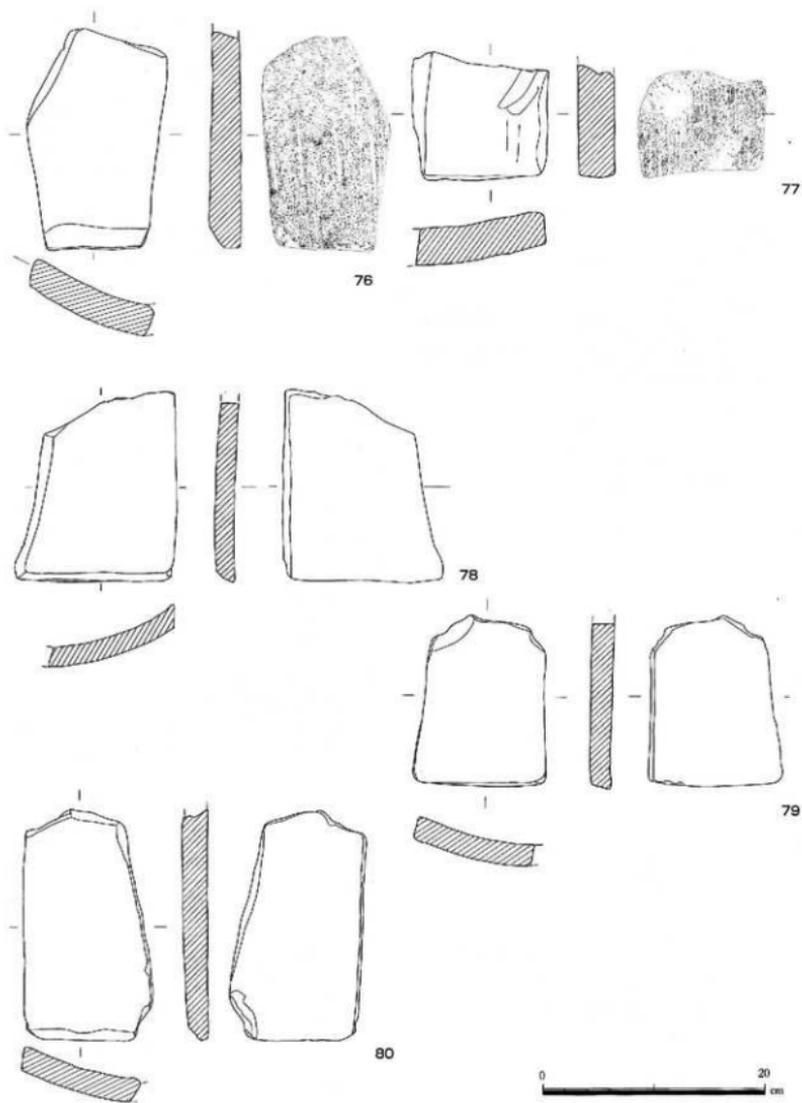
第66図 2004-03 地点 出土遺物実測図 (7)



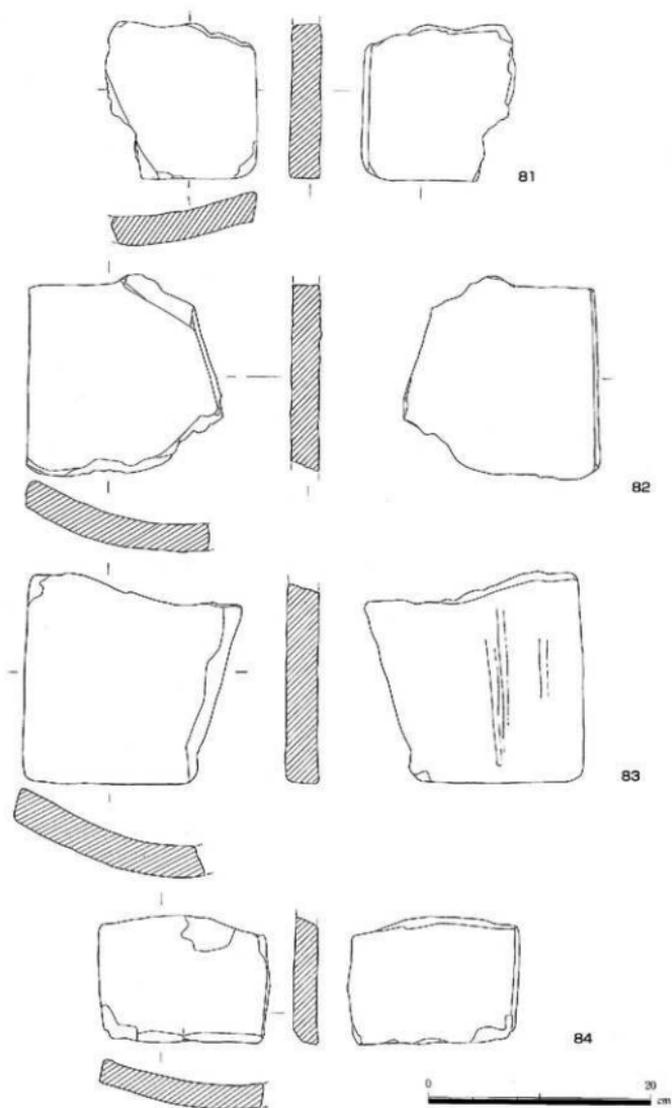
第67图 2004-03 地点 出土遺物実測図 (B)



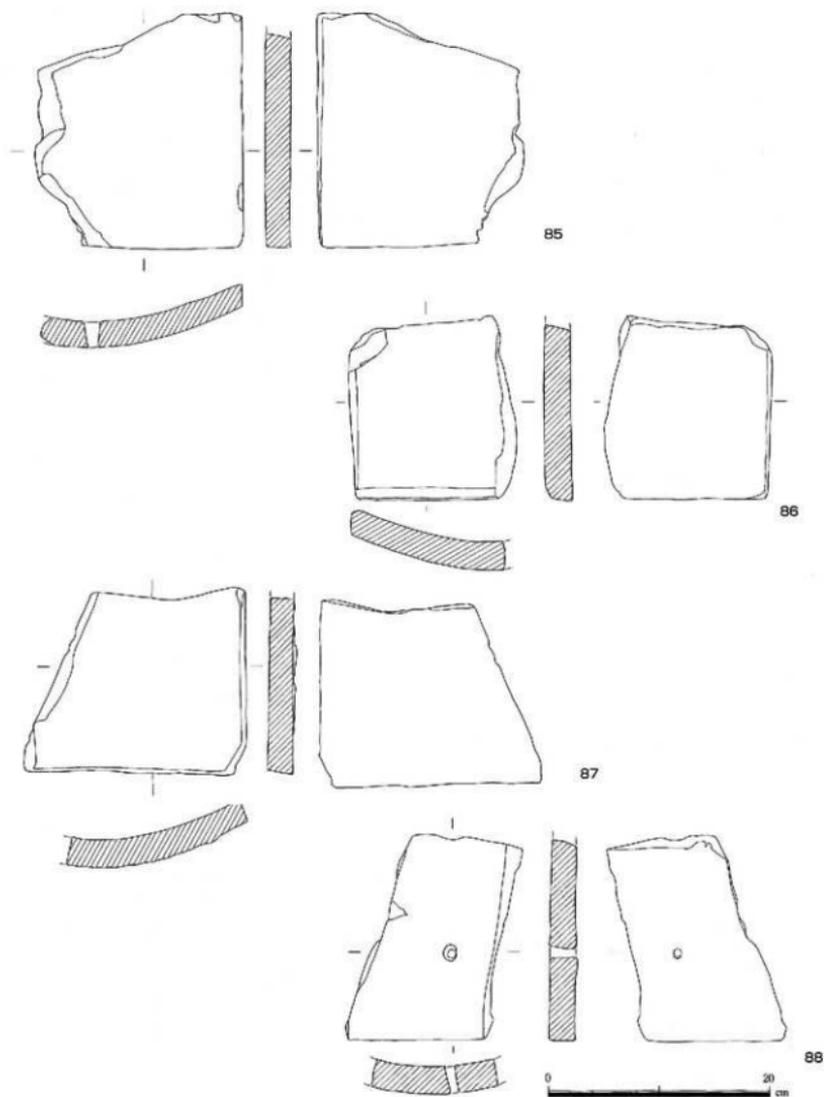
第68图 2004-03 地点 出土遺物実測図(9)



第69图 2004-03 地点 出土遺物実測図 (10)



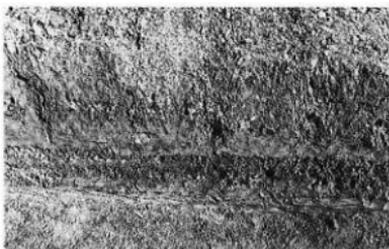
第70图 2004-03 地点 出土遗物实测图 (11)



第71图 2004-03 地点 出土遺物実測図 (12)



全景写真 (西から)



北壁断面写真 (西部分)



北壁断面写真 (東部分)



井戸検出状況写真 (北から)



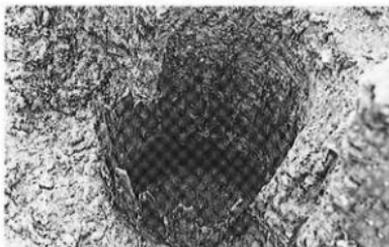
井戸検出状況写真



井戸掘り下げ状況写真



井戸内部木製品検出状況写真



井戸完掘状況写真

第72図 2004-03 地点 トレンチ写真

まとめ 位置指定道路部分の確認調査より耕土直下で井戸を検出した。土地所有者によると、当該地は大正時代に開鑿された畑で、それ以前は小高い地形であったとのことである。過去に実施した確認調査では耕土の下約10cmで砂層が確認されたが、今回も耕土以外は、ほとんどが砂礫層の堆積であった。このことから、この付近一帯は、地下水位が高く伏流水が豊富であったと推測される。「泉大津市史第一巻上」(平成16年 泉大津市)にも、掘り抜き井戸に好適な豊富に水の供給が可能な場所で、旧古池、要池などを通じて流れていた埋没河川の上に砂礫が堆積した土地であり、集落立地に適した地点であったと指摘がある。今回の調査では建物跡は認められず、井戸の上屋も確認できなかった。井戸の年代は近世以降と思われるが、組み上げられている瓦は中世の様相がみられ、泉穴師神社の神宮寺であった穴師薬師寺の瓦であったと想定される。穴師薬師寺が所在した穴師小学校は、当該地の北約300mの地点である。小学校の西に隣接するグラウンドは、昭和40年ごろに埋め立てられる以前は穴師池であったが、その一角に一部平安時代末のものを含む瓦が大量に廃棄されており、これらは穴師薬師寺の瓦であったと考えられている。今回の井戸も、穴師池に廃棄されていた瓦を利用した可能性が高い。

木製品、板状の鋳物については、その用途は不明である。井戸に関する遺物ではなく、井戸廃絶時に廃棄されたものと思われる。

井戸検出部分は排水管が埋設されるが、最も深い部分で70cmの掘削で、未調査部分では更に浅くなることを確認して調査を終了した。



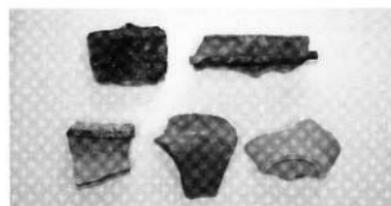
1~7



8~11



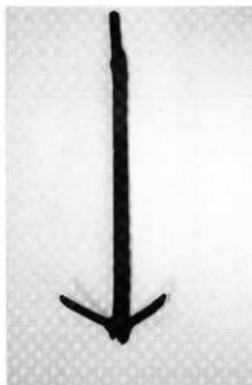
12・13



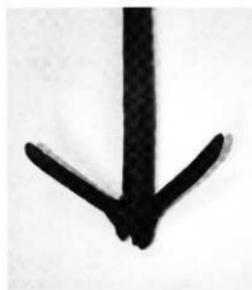
15~19



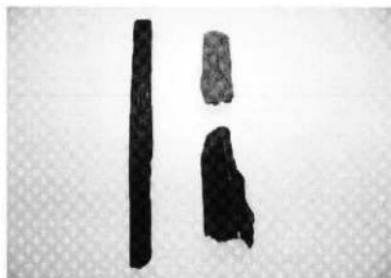
20



14



第73図 2004-03 地点 出土遺物写真(1)



21~23



28



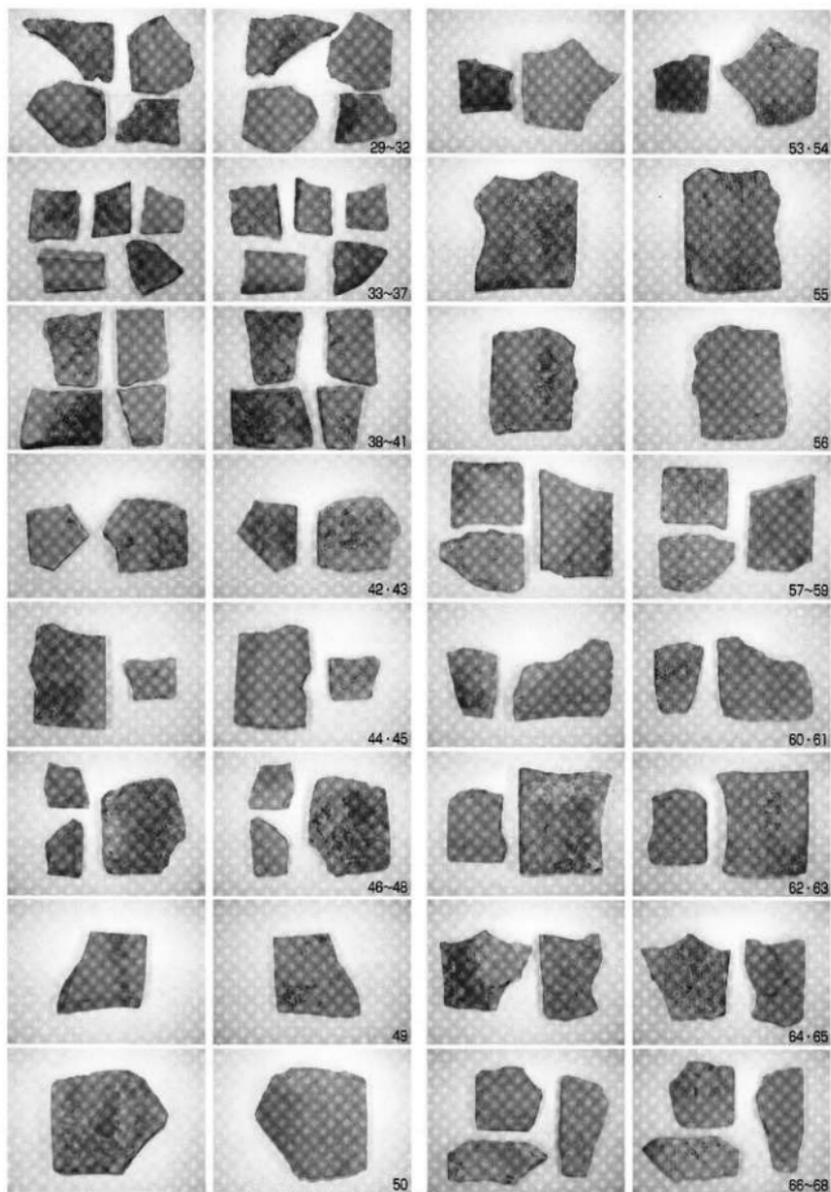
24~26



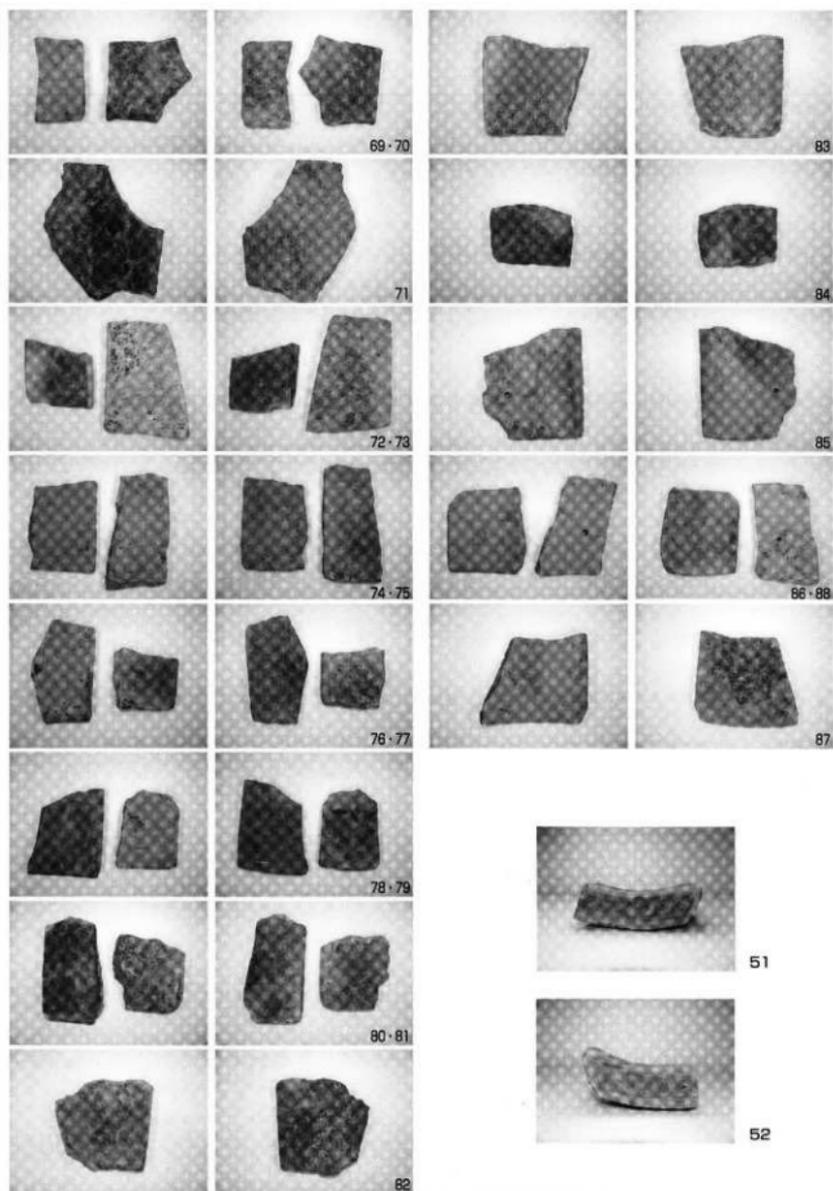
27



第74図 2004-03 地点 出土遺物写真(2)

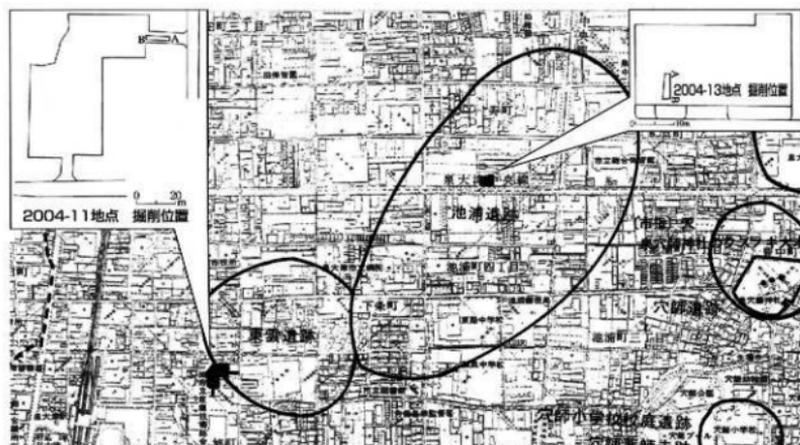


第75图 2004-03 地点 出土遗物写真 (3)



第76图 2004-03 地点 出土遺物写真(4)

5. 東雲遺跡・池浦遺跡



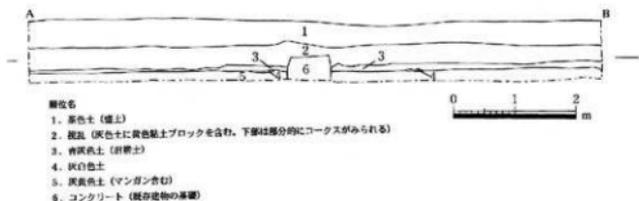
第77図 東雲遺跡・池浦遺跡 調査区位置図 (1:10,000)

東雲遺跡はその中心部が南海本線泉大津駅の東約400mの地点付近に位置する。昭和52年の調査で古墳時代前期の竪穴住居・井戸・溝や中世の掘立柱建物などの遺構が検出されたが、その後の調査では特筆すべき遺構の検出には至っていない。今年度は、分譲住宅の宅地造成に伴い、1件の確認調査を実施した。

池浦遺跡は、弥生時代前期中段階に始まる泉州地域で最も古い弥生集落として知られている。市のほぼ中央部に位置し、遺跡の中心部は市立病院の東側であると推測される。池上曽根遺跡との関わりを考察する上で重要な遺跡であるが、これらの調査成果は昭和40～50年代にかけてのことで、昭和60代以降は、大規模開発がほとんどみられない。これにより、近年の調査は確認調査にとどまっているが、平成9年度の調査で朝鮮系の無文土器の体部を検出したが、遺構は認められなかった。今年度はガソリンスタンド建設が予定されたため確認調査を実施した。

2004-11地点 (旭町88-1)

遺跡の西端に位置する。分譲住宅の建設が予定されたため、工事に先立って確認調査を実施した。敷地東端に幅2.0m、長さ12.5mのトレンチを設定し、重機により掘削を行った。現地表土は盛土で約40cm、その下層は攪乱で厚さ50cm、この層の下部はコークスがみられる。また、この層中に幅70cmのコンクリートがトレンチを横断しているが、当該地は元府立繊維技術研究所であったため既存建物の基礎と思われる。この下層には、旧耕土、白灰色土、灰黄色土がみられ黄色砂に至る。黄色砂は現況地盤から約1.2mの地点からで、少なくとも4cm以上の厚さがみられ湧水がある。この上層の灰黄色土で精査を行ったが、遺構検出には至らなかった。また、遺物も認められなかったため写真撮影・図面作成を行い、調査を終了した。



第78図 2004-11 地点 南壁断面図



第79図 2004-11 地点 トレンチ写真

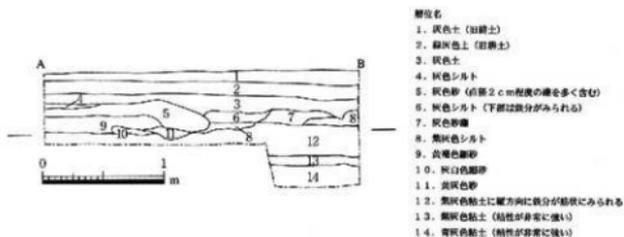


第80図 2004-11 地点 西壁断面写真

2004-13 地点 (寿町54番、55-1番、355-2番、358-1番、359-1番)

遺跡のはば中央に位置する。ガソリンスタンド建設に先立つ確認調査である。当該地は以前もガソリンスタンドで、地下にはタンクで大きく攪乱を受けていたため最も残りの良い敷地西隅に幅2m、長さ6.4mのトレンチを設定した。コンクリート除去後の層位は旧耕土が2層あり、よくしまった灰色土がある。この下層は砂層とシルト層が20~60cmの幅でみられる。この砂層以下は非常に粘性の強い粘土層が90cm以上続く。耕土中には土師器がわずかに見られるが、その他の層では遺構は認められない。青磁破片を1点検出したが、あげ土からの検出であったためどの層からかは不明である。

写真撮影・図面作成を行い、調査を終了した。



第81図 2004-13 地点 東壁断面図



第82図 2004-13 地点 トレンチ写真

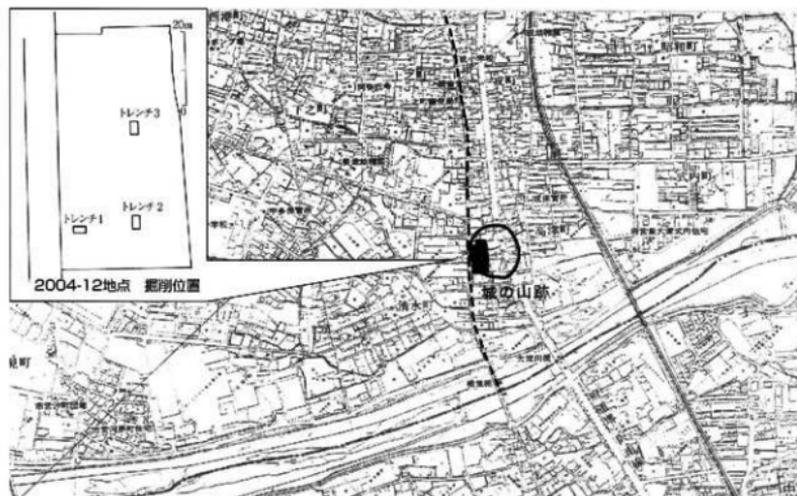


第83図 2004-13 地点 東壁断面写真

6. 城の山跡

城の山は、大正12年の『泉北史蹟志料』に齊藤主膳の居城とされ、地元の伝承では、南北時代の南朝楠木正成の配下にあった藤林民部の居城跡に因んで付けられたとされる小字名である。紀州街道と府道堺阪南線に挟まれた地点で、高津町、清水町にあたる。教育委員会事務局もこれらの伝承に基き埋蔵文化財包蔵地にしたが、今回が初めての発掘調査である。当該地は繊維工場であったが、分譲住宅の建設が予定されたため工事に先立ち確認調査を実施した。

2004-12地点 (高津町133-1、134-1、135、136、137、145-2、146-2)



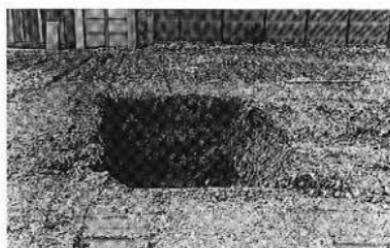
第84図 城の山跡 調査区位置図 (1:10,000)



トレンチ1写真



トレンチ1断面写真



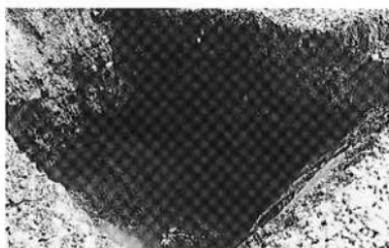
トレンチ2写真



トレンチ2断面写真

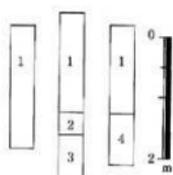


トレンチ3写真



トレンチ3断面写真

第85図 2004-12 地点 トレンチ写真



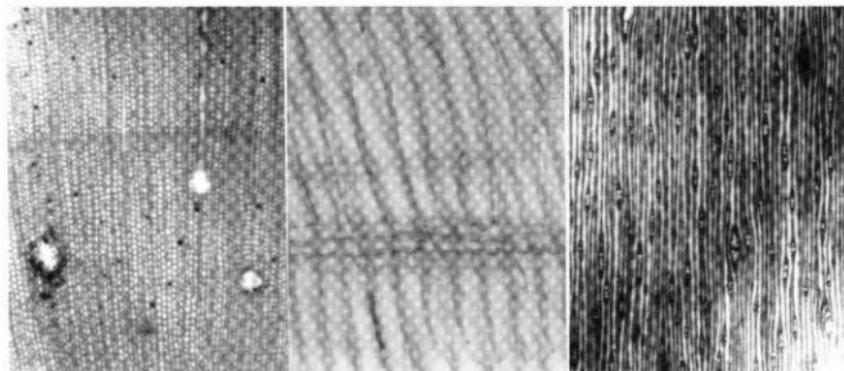
1. 灰緑色の盛土
(灰土、ブロック、レンガなどを含む)
2. 赤褐色土
3. 埋戻色土(下部は埋戻色砂)
4. 黄土色砂

第86図 2004-14 地点
土層断面模式図

分譲住宅の位置指定道路部分に3箇所のトレンチを設定した。工場の基礎が1.5～2mの深さまでであり、トレンチ内はほとんどが解体時の土と工場基礎による攪乱であった。深さ2m以上の掘削を行ったが、下部は砂層のため崩壊があり危険であったため、断面観察にとどめた。砂層は海岸部の堆積の一部と思われる。遺物は瓦器の破片がわずかにみられたが、遺構は検出できなかった。写真撮影と断面図を作成して調査を終了した。工場による削平で遺構は確認できなかった。当該地東隣の敷地は約1.2m高くなっており、こちらが城の山の可能性もある。

穴田遺跡井戸出土木製品の樹種

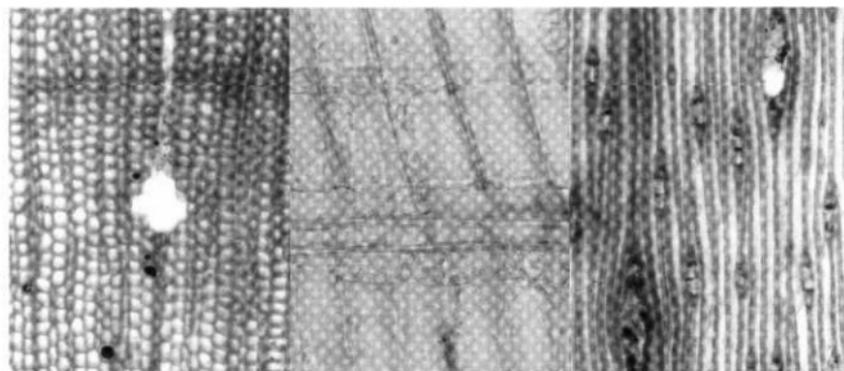
福田さよ子 (大阪市立大学理学研究科・奈良県立橿原考古学研究所)



1. 木口 ×40

3. 柾目 ×200

5. 板目 ×40



2. 木口 ×100

4. 柾目 ×400

6. 板目 ×100

穴田遺跡の井戸から出土した、不明木製品について、樹種の調査をおこなったので報告する。調査に当たっては両刃の剃刀を使用して、実物の破断面から直接木口・柾目・板目の3断面の薄片を採取した。これを洗浄の後、ガムクロラルで封入してプレパラートを作成し、透過光の生物顕微鏡下で観察し、文献の記載と材鑑試料の組織とに照らし合わせて、樹種の同定をおこなった。

観察の結果、垂直・水平両樹脂道を持ち(写真1・2・5・6)、放射仮道管の内壁は鋸歯状に突起し、分野壁孔は大型の窓状であること(写真3・4)が確認できた。また、放射組織は単列で1~10細胞高であることが観察できた(写真5・6)。以上の観察結果からこの材はマツ科(Pinaceae)のマツ属(*Pinus* L.) 複維管束亜属(Subgen. *Diploxylon*)つまり、二葉松の材であると同定した。

表2 遺物観察表

調査番号 遺物番号	類別	遺跡名 調査番号	出土地点	出土層	法量 (cm)			状況	粘土	色調 (内面)	調整、技法、文様など			
					口径	高さ	底径							
第9回 1	弥生土器 土師器	池上曾根 2004-05		灰褐色砂・ 茶褐色砂	24.6			良好	密 (1~2mmの小石)	ぶい褐色 (スス付着) (淡い黄褐色)	外面口縁部キズミ、ヘラ指 内面ヘラ指ミ			
	灰褐色砂・ 茶褐色砂			密					ぶい褐色					
	灰褐色砂・ 茶褐色砂			密 (1~2mmの小石)					明黄褐色 (*)					
	灰褐色砂・ 茶褐色砂			密					ぶい赤褐色 (*)					
第16回 1	彌前 土師器	池上曾根 2004-14	トレンチ1	灰褐色砂 茶褐色砂	女塚			良好	密	水褐色 (*)	外面同転ナデ 穴面猪目			
	伊万屋			白色 染付部は紫色										
	軒丸瓦			ぶい白褐色 (*)					巴文					
	瀬戸系 瓦			黄褐色 断面にぶい黄褐色										
	丸瓦			淡い暗灰色 (*)										
	丸瓦			暗灰色 (*)						丸のスタンプ文、石目				
	土師器 高杯			灰褐色(6層) 茶色砂混								密	明褐色 (ぶい黄褐色)	
	土師器 高杯											密	明黄褐色 (淡い黄褐色)	
	土師器 高杯											密 (1~2mmの白色小石)	ぶい黄褐色 (明黄褐色)	3方向のスカシ、ナデ
	土師器 高杯											密	明黄褐色 (*)	
	弥生土器 甕											2.6	良好	
土師器 甕		4.4	良好	密 (1~5mmの小石)	明い黄褐色 (*)	ナデ								
土師器 甕		4.8	良好	密 (2mmの小石、砂粒)	ぶい褐色 (ぶい灰黄色)	ナデ								
土師器 甕		3.8		底最大厚 3.8		淡い黄褐色 (明い黄褐色)	ナデ							
土師器 甕		3.8			密 (クサリ糺)	淡い灰黄色と明い黄褐色 (ぶい灰黄色)	ナデ 外面タケキ							
土師器 甕		5.4			密	ぶい灰黄色 (灰黄色)	ナデ 外面タケキ							
土師器 甕		34.2			密	ぶい黄褐色 (*)	外面タケキ 内面ナデ、ハケ目							
土師器 甕		36.0			密	明い黄褐色 (*)	外面タケキ 内面削り							
第17回 25	弥生土器 甕	池上曾根 2004-14	トレンチ2	灰色砂(7層) 茶色砂混				良好	密 (0.5~2mmの小石)	黄褐色 (*)	外面タケキ、スス付着			
	暗黒色粘土			密 (0.5~2mmの小石)					ぶい褐色 (明い黄褐色)					
	灰色砂(6層) 茶色砂混			密 (1~3mmの小石)					淡い暗灰色 (淡い灰黄色)	9表のクシ書き直線文が4段 砂岩、クサビ痕				
	暗黒色粘土			密 (2~13mmの小石)					ぶい灰色					
	砂岩			密 (5mmの小石)					淡い灰褐色					
	砂岩			密					暗灰色 (*)					
	ナデ			密					灰褐色 (*)					
	ナデ			密					灰褐色 (*)					
	ナデ			密					灰褐色 (*)					
	ナデ			密					淡い黄褐色 (*)			ナデ、折子ナデ		
ナデ	密	褐色 胎輪部は明い黄褐色	ロクII											
ナデ	密	灰黄褐色、褐色、緑色 胎輪部は淡い灰黄色	ロクロ 底部外側に墨書											
第17回 25	土師器 甕	池上曾根 2004-14	トレンチ2	灰色砂(7層) 茶色砂混	8.1	1.2		良好	密	暗灰色 (*)	ナデ			
	8.0			1.4					灰褐色 (*)					
	8.0			1.3					灰褐色 (*)					
	7.8			1.3					淡い黄褐色 (*)					
第17回 25	瀬戸系 瓦	池上曾根 2004-14	瓦屑		18.2			良好	密	褐色 胎輪部は明い黄褐色	ロクII			
	29.0			15.1					19.7	灰黄褐色、褐色、緑色 胎輪部は淡い灰黄色				
	13.4									淡い緑灰色				
第17回 25	石 瓦	池上曾根 2004-14	石	灰色砂(7層) 茶色砂混	3.5	2.8	0.8	良好	密	暗褐色				
	3.5			2.8					0.8					

採石番号 運物番号	種別	産地名 調査番号	出土地点	出上層	法巻 (cm)		焼成	胎土	色調 (内面)	調整、技法、文様など		
					口径	底径						
第17回-33	陶器 鉢	海上野根 2004-14	トレンチ2	瓦層	8.3		良好	密	暗緑黄色 無釉部は暗灰黄色 にふい緑色 (褐色)	13ク17、底部に穴2箇所 底面外面に墨書		
-34	瀬戸系 火鉢	*	*	*			19.0	*	*			
-35	萩平瓦	*	*	*			瓦厚 1.3	*	*	暗灰色 (*)	ナデ 均成唐草文	
-36	萩平瓦	*	*	*			瓦厚 1.5	*	*	暗灰色 (*)	ナデ 均成唐草文	
-37	萩丸瓦	*	*	*			瓦厚 2.5	*	*	にふい暗灰色 (*)	蓮珠巴文	
-38	萩丸瓦	*	*	*			瓦厚 2.5	*	*	暗灰色 (*)	蓮珠巴文	
-39	萩丸瓦	*	*	*			瓦厚 2.1	*	*	暗灰色 (*)	蓮珠巴文	
第18回-40	丸瓦	*	*	*				*	*	暗灰色 (*)		
-41	丸瓦	*	*	*				*	*	淡い暗灰色 (*)		
-42	丸瓦	*	*	*				*	*	暗灰色 (*)		
43	丸瓦	*	*	*				*	*	淡い暗灰色 (*)		
-44	丸瓦	*	*	*				*	*	暗灰色 (*)		
-45	平瓦	*	*	*				*	*	暗灰色 (*)		
-46	平瓦	*	*	*				*	*	暗灰色 (*)		
-47	平瓦	*	*	*				*	*	暗灰色 (*)	ナデ	
-48	平瓦	*	*	*				*	*	灰黄色 (*)	ナデ	
第25回	土師器 木杯 瓦器 壺	豊中 2004-02		青灰色砂 掘り土				*	*	暗灰色 (*)		
第60回-1	土師器 羽釜 瓦器 壺	穴田 2004-03	トレンチ西側	茶褐色細砂	7.5	1.1		*	やや密	灰黄色 (*)	ナデ、指オサエ	
2	土師器 羽釜	*	*	*		調整 33.2		*	やや粗	暗灰色 (暗褐色)	ナデ	
-3	瓦器 前	*	井戸割り方					*	*	暗灰色 (灰白色)	ナデ	
-4	瓦器 前	*	*	*				*	密	暗灰色 (灰色)	ナデ	
-5	瓦器 前	*	*	*				*	*	暗灰色 (*)	ミガキ	
-6	土師器 壺	*	*	*			1.1	*	*	淡い黄色 (*)	ナデ	
-7	土師器 壺	*	*	*			8.0	1.0	*	棕色 (*)	ナデ	
-8	土師器 土鉢 丸器 壺	*	井戸内				口径 1.1	不良	粗 (3mmの砂粒)	灰黄色 (暗褐色)	ナデ、指オサエ	
-9	土師器 壺	*	*	*				良好	密	暗灰色 (灰色)	ナデ	
-10	土師器 壺	*	*	*			8.4		*	黒灰色 (*)		
-11	石	*	*	*			7.2	1.4	*	暗褐色 (*)		
12	石	*	*	*			縦 17.3 横 8.5	縦入厚 8.9	*	灰色		
13	石	*	*	*			縦 17 横 11.4	縦入厚 7.5	*	灰色		
-14	不明木製品	*	*	*			縦 65	縦入径 2	*	灰色 5-20の小石	3つ又、松材	
-15	瓦器 羽釜	*	*	*			26	15.8	良好	密	暗灰色 (灰白色)	外面横ナデ、指オサエ 内面掻き目
-16	瓦器 羽釜	*	*	*			25.6	口径 30.4	*	*	暗褐色 (灰白色)	外面同縦ナデ、ヘラ割り ハケ目
-17	陶器 壺	*	*	*			22.2		*	*	灰色 (赤褐色)	外面同縦ナデ、ロクロ 自然種 板ナデ
-18	陶器 壺	*	*	*				14.2	*	*	暗褐色 (強灰白色)	
-19	青白磁 壺	*	*	*				7.3	*	*	灰白色 (強灰白色)	チリメン状のしわ

発掘番号 遺物番号	種別	遺跡名 調査番号	出土地点	出土層	法量 (cm)			続成	胎土	色調 (内面)	溝轡、技法、文様など
					口径	高さ	底径				
第73回-20	骨	穴川 2004_3	井戸内		縦 19.8	横 3.3				暗灰褐色	
第61回-21	木製品 井筒	*	*		長さ 25.5	横 2.2	最大厚 0.9				
-22	*	*	*		長さ 7.5	横 2.7	最大厚 1.6				
-23	*	*	*		長さ 11.5	横 5	最大厚 1.1				
24	土製品	*	*		長さ 4.2	横 3.2	最大厚 1.3	やや良	密	灰黄色 (にぶい黄褐色)	
-25	*	*	*		長さ 9	横 2.7	最大厚 1.3	*	密 (2-4mmの小石)	灰黄色 (にぶい黄褐色)	
-26	*	*	*		長さ 5.8	横 3	最大厚 1.4	*	密 (2-4mmの小石)	黄灰色 (黄褐色)	
-27	紡物	*	*		縦 38.8	横 22.3	最大厚 5.2			にぶい赤褐色 (*)	結びが激しい
-28	石	*	*		縦 23.3	横 16.3	最大厚 14.2		密	灰色 砂粒	
第62回-29	平瓦	*	*					良好	*	暗灰色 (灰白色)	指イザエ、
-30	*	*	*					*	*	灰白色	横骨痕?
-31	*	*	*					*	*	灰白色 (暗灰色)	横骨痕?、布目
-32	*	*	*					*	*	灰白色、灰黒色 (黄褐色)	横骨痕?、布目、縄目
-33	*	*	*					*	*	暗灰色 (灰白色)	布目、縄目、削り
-34	*	*	*					*	*	暗灰色 (灰白色)	横骨痕?、布目、縄目
-35	*	*	*					*	*	暗灰色 (灰白色)	横骨痕?、布目、縄目
-36	丸瓦	*	*					やや不良	*	灰色 (*)	布目、面取り
-37	*	*	*					良好	*	灰色 (*)	布目、削り、面取り
第63回-38	平瓦	*	重機掘削時					やや不良	*	淡い黄灰色 (*)	縄目、ハナレ砂
-39	*	*	*					良好	*	灰色 (*)	横骨痕、布目、縄目
-40	*	*	*					*	*	暗灰色 (灰白色)	赤切ぎ痕
-41	*	*	*					*	*	黄灰色 (*)	布目、面取り、縄タタキ
-42	*	*	*					*	*	にぶい黄灰色 (*)	横骨痕?、布目、縄タタキ
-43	*	*	*					*	*	にぶい灰色 (灰白色)	横骨痕?、縄タタキ、 ハナレ砂
-44	*	*	*					*	*	暗灰色 (灰白色)	縄タタキ
-45	*	*	*					*	*	暗灰色 (灰白色)	布目?面取り、縄タタキ
第64回-46	*	*	*					*	*	暗灰色 (白灰色)	布目?削り、縄タタキ
-47	*	*	*					*	*	灰色 (灰白色)	ハナレ砂、面取り、 赤切ぎ痕
-48	*	*	*					*	*	暗灰色 (*)	
-49	*	*	*					*	*	灰色 (*)	布目、赤切ぎ痕、縄タタキ、 ハナレ砂
-50	*	*	*					*	*	暗灰色 (*)	削り?
第65回-51	*	*	井戸					*	*	黄灰色 (*)	透珠文、縄タタキ
-52	*	*	*					やや不良	*	黄灰色 (淡い黄灰色)	透珠文、縄タタキ
-53	*	*	*					良好	*	暗灰色 (灰色)	横骨痕、布目、削り、縄タタキ
-54	*	*	*					*	*	灰黄色 (暗灰色)	布目、縄タタキ
-55	*	*	*					*	*	暗灰色 (灰白色)	布目、面取り、縄タタキ、 指イザエ

採掘番号 遺物番号	種別	遺跡名 調査番号	出土地点	出土層	法量 (cm)			焼成	胎土	色調 (内面)	調整、技法、文様など
					口径	器高	底径				
第65回-56	平丸	穴田 2004-3	井戸					良好	密	暗灰色 (灰白色)	横骨痕、布目、縄タタキ
第66回-57	*	*	重機掘削時					不良	*	灰色 (*)	布目、板ナデ、縄タタキ
-58	*	*	*					やや不良	*	黄褐色 (*)	ハナレ砂、糸切り痕、縄タタキ
-59	*	*	井戸					良好	密	暗灰色 (灰色)	横骨痕? 布目、面取り 縄タタキ、指オサエ
-60	*	*	*					不良	*	暗灰色 (砂粒)	布目、面取り 縄タタキ、指オサエ
-61	*	*	*					良好	密	茶 (暗褐色粘土)	ハナレ砂、削り
-62	*	*	*					*	密	灰色 (*)	布目、ハナレ砂
-63	*	*	*					*	*	暗灰色 (*)	布目、ハナレ砂
第67回-64	*	*	*					*	*	暗灰色 (灰黄色)	布目、ナデ、面取り、縄タタキ
-65	*	*	*					*	*	灰色 (灰黄色)	布目、縄タタキ
-66	*	*	*					*	*	灰黄色 (*)	布目、指オサエ、縄タタキ
-67	*	*	*					*	*	灰黄色 (*)	布目、ハナレ砂
-68	*	*	*					*	*	灰色 (灰黄色)	布目、縄タタキ
-69	*	*	*					*	*	灰黄色 (*)	板状工具によるタタキ?、 縄タタキ
-70	*	*	*					*	*	暗灰色 (藍色)	糸切り痕、面取り 縄タタキ、ハナレ砂
第68回-71	*	*	*					*	*	暗灰色 (藍色)	布目、縄タタキ
-72	*	*	*					*	*	暗灰色 (藍色)	布目、面取り、縄タタキ
-73	*	*	*					不良	*	淡い灰黄色 (*)	布目、糸切り痕、ハナレ砂?
-74	*	*	*					*	密	灰色 (*)	板削り、ハナレ砂
-75	*	*	*					*	*	淡い灰黄色 (灰色)	ハナレ砂? 縄タタキ
第69回-76	*	*	*					*	*	灰色 (*)	糸切り痕、面取り、ハナレ砂 縄タタキ
-77	*	*	*					*	*	暗灰色 (淡い灰黄色)	縄タタキ
-78	*	*	*					*	*	暗灰色 (灰色)	ハナレ砂、面取り
-79	*	*	*					*	*	灰黄色 (暗灰色)	ハナレ砂
-80	*	*	*					*	*	暗灰色 (藍色)	面取り、ナデ
第70回-81	*	*	*					*	*	暗灰色、灰黄色 (*)	
-82	*	*	*					*	*	暗灰色 (灰黄色)	
-83	*	*	*					*	*	淡い灰黄色 (*)	糸切り痕
-84	*	*	*					*	*	暗灰色 (灰色)	面取り
第71回-85	*	*	*					*	*	灰色 (暗灰色)	直径13mmの穴有
-86	*	*	*					*	*	暗灰色 (灰色)	面取り、糸切り痕
-87	*	*	*					*	*	灰色 (*)	ハナレ砂
-88	*	*	*					*	*	淡い黄色 (*)	直径8mmの穴有

発掘調査抄録 その1

ふりがな	いずみおつしまいぞうぶんかざいはくつちようさがいはう
書名	泉人津市埋蔵文化財発掘調査概報
副書名	
巻次	23
シリーズ名	泉大津市文化財調査報告
シリーズ番号	39
編者名	虎間麻実
編集機関	泉大津市教育委員会
所在地	〒595-8686 大阪府泉大津市東雲町9番12号
発行年月日	西暦 2005年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしがみそね 池上曾根	おおさかみいずみおつし 大阪府泉大津市 もりちよう 森町145-1,149-2, 149 3,150-3 の各一部150-2	272060		34度	135度	20040209	4.8	木造2階建個人住宅 建設に伴う事前 調査
	おおさかみいずみおつし 大阪府泉大津市 もりちよう 森町2丁目259番、 260番1、260番3、 261番7、261番9	272060		34度	135度	20040408	15.6	寄宿舎建設に伴う 事前調査
	おおさかみいずみおつし 大阪府泉大津市 そねちよう 曾根町1丁目 32番の一部	272060		34度	135度	20040624 20040708	36.95	一戸建て個人住宅 建設に伴う事前調 査
とよなか 豊中	おおさかみいずみおつし 大阪府泉大津市 ひがしとよなかちよう 東豊中町1丁目 1丁目68-1	272060		34度	135度	20040130	8.55	鉄筋コンクリート 造2階建個人住宅 建設に伴う事前調 査

所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
いしがみそね 池上曾根	集 落	弥 生	遺構は検出されなかった	弥生土器、土師器、須恵器	
		古 墳	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	
		余 良 平 安	遺構は検出されなかった	土師器、瓦器、瓦、陶磁器	
とよなか 豊 中	集 落	縄 文 占 平 中 世	遺構は検出されなかった	弥生土器、須恵器	

発掘調査抄録 その2

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とよなか 豊 中	おおさかみずみおおつし 大阪府泉大津市 ひがしとよなかちよう 東豊中町2丁目 963-6	272060		34度 29分 22秒	135度 25分 40秒	20040219	15.5	2階建長屋建住宅 建設に伴う事前調 査
	おおさかみずみおおつし 大阪府泉大津市 きたとよなかちよう 北豊中町 3丁目1-1	272060		34度 29分 29秒	135度 25分 44秒	20040322	4.5	広告塔建設に伴う 事前調査
	おおさかみずみおおつし 大阪府泉大津市 ひがしとよなかちよう 東豊中町2丁目 961-10	272060		34度 29分 24秒	135度 25分 46秒	20040324	16.80	デイサービスセン ター建設に伴う事 前調査
むしとり 虫 取	おおさかみずみおおつし 大阪府泉大津市 いけうちちよう 池浦町1丁目 22番1、4 23番1、5	272060		34度 29分 38秒	135度 24分 55秒	20040106 ? 20040107	10.56	鉄骨造平屋建店舗 建設に伴う事前調 査

所収遺跡名	種別	主な 時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
とよなか 豊 中	集 落	縄 文	柱穴7基、うち3基は建物を構成	土師器、須恵器、瓦器	
		古 墳	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	
		平 安	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	
むしとり 虫 取	集 落	中 世	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	
		弥 生 古 墳 中 世	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	

発掘調査抄録 その3

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
むしとり 虫取	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 いたばら 板原1丁目 311-2、312-1の一部 312-6の一部	272060		34度 29分 20秒	135度 24分 40秒	20040406	8.2	分譲住宅地造成に伴う事前調査
	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 いたばらちよう 板原町1丁目 261-1	272060		34度 29分 16秒	135度 24分 44秒	20040407	10.05	個人住宅建設に伴う事前調査
いたばら 板原	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 いたばら 板原4丁目 1235番2	272060		34度 28分 57秒	135度 25分 7秒	20040715	3.57	個人住宅建設に伴う事前調査
	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 あびこ 我孫子 633番、634番	272060		34度 29分 7秒	135度 25分 16秒	20040826	12.5	平屋建老人デイサービスセンター建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
むしとり 虫取	集落	弥生	遺構は検出されなかった		遺物は検出されなかった			
		古墳 中世	遺構は検出されなかった		遺物は検出されなかった			
いたばら 板原	包含地 集落	縄文	遺構は検出されなかった		瓦、瓦器			
		古墳 中世	遺構は検出されなかった		遺物は検出されなかった			

発掘調査抄録 その4

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いたはら 板原	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 いたはらちょう 板原町4丁目 1248番の一部	272060		34度 28分 54秒	135度 25分 4秒	20041126	8.1	鉄骨平屋建倉庫建設に伴う事前調査
あなだ 穴川	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 あびこ 我孫子29-1、 376の各一部	272060		34度 29分 22秒	135度 25分 15秒	20040201 / 20040205	11.9	分譲住宅地造成に伴う事前調査
しのめ 東雲	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 あさひちょう 旭町88-1	272060		34度 29分 55秒	135度 24分 45秒	20040415	25	分譲住宅地造成に伴う事前調査
いけうち 池浦	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 ことぶきちょう 寿町54番、55-1番 355-2番、358-1番 359-1番	272060		34度 29分 54秒	135度 25分 10秒	20040512	12.8	平屋建ガソリンスタンド建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な 時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
いたはら 板原	集落	縄文 古墳 中世	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	
あなだ 穴川	集落	古墳 中世	近世井戸1基	土師器、瓦器、瓦、木炭、獣骨、板状銅物	
しのめ 東雲	集落	古墳 中世	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	
いけうち 池浦	集落	中世	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	

発掘調査抄録 その5

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
じょうのやま 城の山	おおさかふいずおおつし 大阪府泉大津市 たかつらよう 高津町133-1、134-1 134 2、135、136 137、145-2、146-2	272060		34度 29分 42秒	135度 24分 4秒	20040420	19	分譲住宅地造成に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な 時代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
じょうのやま 城の山	城館跡	中世	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	

泉大津市文化財調査報告39

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報23

2005年3月

発行 泉大津市教育委員会
編集 生涯学習課
泉大津市京雲町9番12号

印刷 大阪市大正区三軒家東1-2-9
株式会社 栄光堂印刷所

